

郷土品野地区の歴史

下品野地域力向上協議会
伝統文化グループ

協力 郷土の歴史と文化を広める会

郷土品野地区の歴史

はじめに

かつて、信州飯田街道（中馬街道）を中心に展開された周辺ネットワークによる、産業・文化・祈り（宗教）の多様さによる先人の営みは、賛歌に値すると思います。

この「郷土品野地区の歴史」は、正に先人の活動の変遷を掘り起こし編集したものです。

「温故知新」

過去の営みを網羅することが出来ているという視点も大事ですが、今を生きる私たちが過去をどう生かし、将来にどう向き合うかという視点での共有素材として活用頂ければ携わったものとして望外の喜びです。

文中説明

文中、少し太めの文字は、より深みを求められる様、写真・QRコードを載せてある印です、ご活用ください。充分目を通してますが、文中に相違等ございましたら、ご一報くださるようお願い申し上げます。

ご連絡は、nbr123@me.com

2025 年 3 月 20 日 発行

目 次

35,000 年前～ 紀元前 900	1 頁
113 3 世紀 7 世紀 1864(元治元年)	2 頁 ～ 22 頁
1868(明治元年) 1912(明治 45 年)	22 頁 ～ 30 頁
1912(大正元年) 1926(大正 15 年)	30 頁 ～ 32 頁
1927(昭和 2 年) 1989(昭和 64 年)	32 頁 ～ 44 頁
1989(平成元年) 2019(平成 31 年)	44 頁 ～ 48 頁

2019(令和元年) 2024(令和 6 年)	48 頁 ～ 49 頁
窯屋の『一子相続』『永大ろくろ一挺の制度』(18頁) 明治10年後の日本赤十字の創立(24頁) 明治30年上品野馬頭観音(27頁)	50 頁
品野七城 窯業・陶祖碑 品野陶磁器工業協同組合	51 頁
東春日井郡品野町と瀬戸市との合併資料(37頁～38頁) 合併への推移 合併条件協定書 合併条件付帯事項	52 頁 ～ 53 頁 54 頁 55 頁 ～ 56 頁
附明治39年時町村小字 品野地区の神社 品野地区の寺院 本誌作成資料一覧表 編集後記	57 頁 58 頁 ～ 60 頁 61 頁 ～ 62 頁 63 頁 64 頁

郷土品野地区の歴史

年代	郷土品野の歴史	
35,000前～ ～12,000前 草創期12,000前 ～10,000前 早期10,000前～ 6,000前 前期6,000前～ 5,000前 中期5,000前～ 4,000前 後期4,000前～ 3,000前 晩期3,000前～ 2300前頃 紀元前900	後期旧石器時代 愛知県下では茶臼山遺跡(北設楽郡豊根村)、上品野遺跡(瀬戸市)など数百ヶ所の遺跡が発見されている 瀬戸市内では3ヶ所、最も古い遺跡は上品野遺跡でナイフ形石器や台形石器、斧型石器、剥片類が集中的に出土 赤津地区の惣作・鐘場遺跡ではナイフ形石器と剥片類、搔器類が出土 同じく赤津地区の山路遺跡では木葉形の尖頭器を採集 品野地区の縄文遺跡 品野西遺跡:縄文時代草創期～早期～前期～中期～後期～晩期 岩屋堂遺跡:早期(約8000年前)押型文土器、石鏃が出土 針原遺跡:押型文土器が出土 鳥原遺跡、境井遺跡:装飾豊かな縄文土器・石器の出土 落合橋南遺跡:河川に隣接した沖積地や段丘上に立地した遺跡多い 針原遺跡、落合橋南遺跡、品野西遺跡:後期の土器出土 針原遺跡、上品野蟹川遺跡、落合橋南遺跡、品野西遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期にかけ、上品野遺跡、落合橋南遺跡では弥生土器が出土、住居跡も確認 品野西遺跡でも弥生土器が出土	旧石器時代は、縄文時代以前の土器を伴わない時代 3万5千年以前を前期、3万5千年～1万2千年前を後期とする時代区分 《瀬戸市史資料編1～6》以下《市史》 東海環状道建設工事に伴う発掘調査 瀬戸市域最古と鑑定された上品野遺跡 後期旧石器時代弥生時代～近世 灰釉(かいゆう)陶器等が出土 国内で土器が出現し、石鏃など後期石器時代には見られない新たな石器が使用された時代 地質年代的には更新世から完新世への変換期 《市史》 縄文時代 になると気温の上昇 にともなって「縄文海進(じょうもんかいしん)」と呼ばれる海水面の上昇が起こり、知多半島や三河湾に内海が形成され、人々は海岸沿いで狩猟採集生活を営むようになった このため愛知県内の縄文遺跡や貝塚は海岸沿いに多い  品野西遺跡4b区出土 縄文時代草創期 有舌尖頭器  品野西遺跡Cc区検出 奈良時代 大型建物群

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
113 3世紀	景行天皇43 4世紀	熱田神宮創建 《伝》 尾張地域の前期古墳、犬山市東之宮古墳、佐織町奥津社古墳、東海市兜山古墳など三角縁神獣鏡を副葬品とする古墳が築造 東谷山北西の庄内川左岸に前方後円墳の白鳥塚古墳、東谷山山頂に尾張戸神社古墳が4世紀後半に築造 5世紀 中期古墳では犬山市青塚古墳妙感寺古墳庄内川矢田川流域の守山白山古墳、味美地区の白山神社古墳など5世紀前葉～中葉に築造 6世紀 後期古墳 は名古屋台地の断夫山古墳、味美の二子山古墳など巨大な前方後円墳が6世紀初めに築造 6世紀後半には、横穴式石室を主体部とする群集古墳が各地で築造 瀬戸地区では5世紀末～6世紀初め幡山地区で方墳の駒前一号墳(家形埴輪出土)帆立貝形前方後円墳の本地大塚古墳(人物・鳥形埴輪出土)が築造いづれも埴輪を墳丘に廻らせている 水野川中流域では左岸丘陵上に八床古墳、穴田古墳群、暁古墳群、昔田古墳群が築造、なお、穴田古墳群、暁古墳群では7世紀後半に築造のピークが庄内川流域より遅くまで古墳の築造が行われていた 《市史》 品野地区の古墳遺跡 天白古墳群 古墳時代後期 円墳3基(消滅)須恵器 八床古墳 古墳時代後期 円墳(消滅)金環・鉄鏃・須恵器 井山古墳 古墳時代後期 円墳 須恵器 落合橋南遺跡2 古墳時代～中世 金峯神社古墳(蔵王塚)	古墳時代は、考古学的には、墳丘を伴う「古墳」が全国で築造された時代墳丘墓は、弥生時代から築造されるが、3世紀後半頃より大型の前方後円墳や前方後円墳の墳丘墓が築造 その後畿内を中心に巨大な前方後円墳が出現 《市史》 愛知県最古の古墳は東之宮古墳(犬山市) 4世紀の前方後方墳被葬者は、犬山周辺の「邇和(にわ)」地域を治めていた権力者と考えられる 5世紀から6世紀にかけて古墳は巨大化 県下最大の前方後円墳である断夫山(だんぷさん)古墳(名古屋市)は、尾張連草香(おわりのむらじくさか)の墓であると考えられている  駒前第1号墳 setopedia  本地大塚古墳 wiki  東之宮古墳 wiki  瀬戸の古墳(幡山地区1 本地大塚古墳駒前1号墳) seto-guidfe  上品野遺跡 全国遺跡報告総覧 奈良文化財研究所  尾張草香 wiki
593 6世紀 ～		古代・中世の遺跡 古代の集落遺跡は、品野地区の上品野蟹川遺跡、品野西遺跡、落合橋南遺跡、赤津地区の惣作・鐘場遺跡で確認 品野西遺跡では奈良時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡、上品野蟹川遺跡では平安時代の竪穴住居跡が検出 品野西遺跡の段丘面上で確認された竪穴住居は、一辺が7m以上の規模の大きなもので、愛知県内の同時期の住居跡と比較しても際立って大型の住居跡である 品野西遺跡の東側約200mの地点に存在する落合橋南遺跡では同時期の掘立柱建物群が検出 両遺跡の間に中心的な集落が存在しているものと考えられる縁辺部である品野西遺跡の住居跡の規模からみて、その中心となる集落は拠点的もしくは公的な性格を持つ集落であったと考えられている 品野地区では、他に上品野遺跡、中品野遺跡、品野中部遺跡などで、古代の遺物が出土あるいは採集 上品野遺跡では、隣接する集落からの流れ込みと考えられる平安時代の灰釉陶器が大量に出土 斎串や馬形木製品などの祭祀木製品の出土も見られた また、品野西遺跡、品野中部遺跡では7世紀代と考えられる瓦が出土、 集落近くに古代寺院が存在していた可能性がある	

7世紀 中世の集落遺跡は、下半田川の尾呂集落跡、品野西遺跡、落合橋南遺跡で確認
また各地とも中世遺物が採集される遺物散布地が沖積地及び段丘上に広範囲に広がっており、河川流域の広い範囲に集落・耕地が存在していたものと考えられる
品野西遺跡では中世墓群が確認
15世紀前半から16世紀前半にかけての土坑墓と火葬施設が密集して構築
中世の品野地区の城跡は、現況で遺構が確認できるのは片草城跡、品野城跡、桑下城跡の3城跡

《市史》

645 大化元年

7月17日 元号の始まり
皇極天皇4年

672 天武天皇元年

壬申(じんしん)の乱
尾張国司は、天武天皇側につく



壬申の乱 wiki



国郡里制 wiki

701 大宝元年

国郡里制 尾張、三河が成立

710 和銅3年

焼き物の産地が名古屋市東山地区から猿投山西南麓地域へ拡大
飛鳥時代の終わり頃
品野西遺跡より瓦の破片を発掘



簾状重弧(れんじょうじゅうこ)文軒平瓦(もんのかひらかわら)



品野西遺跡
setopedia

725 神亀2年頃

行基伝説と岩屋堂



岩屋堂 setopedia

《岩屋堂ガイドブックⅡ》以下《岩屋Ⅱ》

行基伝説 聖武天皇の時代岩屋堂にきて草庵を建て、千手観音、白衣観音、薬師如来の3体の仏像を彫刻 それが浄源寺本尊の
白衣観音菩薩像 岩屋岩窟の薬師如来像、菩提寺本尊の
千手観音菩薩像の3体の仏像

《伝》《張州雑誌》

729~
749 天平年中

寂場山菩提寺(上品野町) 創建

《伝》

734 天平6年

大松山全宝寺(品野町2丁目)天台宗寺院として創建
《瀬戸市歴史文化ガイドブック千年続く誇りを巡る旅》 以下《千年旅》

《伝》



菩提寺 setopedia



全宝寺 setopedia



寂場山 菩提寺 (上品野町)

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
771 901 ～923	宝亀2年 延喜元年 ～23年	深川神社創建 《伝》 延喜式 神祇九 神名上（瀬戸関係5座） 大目神社   深川神社本殿・市指定建造物 大目神社・国登録文化財	延喜式(えんぎしき)は平安時代中期に編纂された格式(律令の施行細則) 延喜式の神名に山田郡に所在する片山神社以下19の神社を掲載している 後世、高い社格の式内社となった 《市史》 (瀬戸関係5座) 大目神社、深川神社、金神社、尾張戸神社、山口神社(小口神社?) 参考資料中、瀬戸関連5座には、「小口神社」とあるが、「山口神社」と記載しました 理由:書写された際、「山」の字の横線が薄く「小」と誤写されたとの説が最有力で すので、「山」とした 瀬戸市教育委員会及び瀬戸市埋蔵文化財センター発刊の発掘調査報告書 に、瀬戸市内遺跡出土の7世紀～16世紀までの墨書・篋(へら)書土器の 一覧表が掲載されているこの中の品野地区の遺跡を示す
7世紀	～16世紀	品野地区遺跡出土の7世紀 ～16世紀までの墨書・篋(へら)書土器      	上品野遺跡 集落跡8～9世紀 須恵器 ×(記号) 9世紀 灰釉「吉」「山」その他 墨書 計31点 上品野蟹川遺跡 集落跡 9世紀「山寺」「豊道」「文屋門」等灰釉 ～15世紀「五」「十」他 山茶碗等 墨書 計33点 鶯窯跡 岩屋町窯跡 年代不明「金」「八月六」灰釉 篋書 計2点 鳥原遺跡 集落跡 15世紀前半「×」天目茶碗 篋書 計1点 品野西遺跡 集落跡 8世紀前半～後半「豊」「下」「千守」須恵器坏蓋 墨書・10世紀 須恵器碗「吉」灰釉碗「口」墨書 12～13世紀 山茶碗「+」篋書、墨書 他 計18点 八床第1号窯跡 八床町 年代不明「×」篋書 灰釉碗 計1点 月山窯定光寺町窯跡 16世紀「よいち／又四ち」皿 「予十郎」徳利 篋書 計2点
7世紀	～16世紀	入尾城 wiki  品野西遺跡 3b区NR05出土 奈良時代 墨書須恵器(坏蓋)「豊」  	      上品野遺跡 上品野蟹川遺跡 鶯窯跡 品野西遺跡 八床古窯跡群 月山古窯跡
1051	永承6年	前九年の役 美濃源氏が頼義・義家に敗れ尾張へ逃亡、 尾張源氏の始祖となる	姓を水野と改め、水野氏の始祖となる この時、大金重高との姻戚関係が生じ、平景俊の子高家、隆康、有高が 源氏姓の大金重高の高が継承(通字の慣習)され、水野郷でも当時台頭 した源氏姓を名乗ったようだ
1079 1129 1157	承暦3年 大治4年 保元2年	尾張源氏の惣領山田重忠は、尾張の国山田郡菱野(瀬戸市八幡町)に築城 尾張平氏の景貞(太平太)は山田郡水野郷に入尾城を築城 (鹿乗町入尾) 入尾城(鹿乗町)の城主であった平景俊は水野の本郷に移転	

1185	文治元年	源頼朝 鎌倉幕府を開設(～333)		鎌倉幕府 wiki		鎌倉幕府は後に山田重忠を尾張国山田郡の地頭職に任命 大金佐衛門尉重高 水野の一色城から移り、品野城(上品野町)を築城品野郷を支配 《伝》 美濃の合戦で朝廷方の大金重高、水野高重、有高等討死 山田重忠と 水野隆康は京へ敗走 山田重忠は自刃、水野隆康(小川)は、嵯峨般若寺山 の水野邑に隠住した 尾張国山田郡の所領は没収
1214 ～19	建保元年 ～7年	大金佐衛門尉重高 品野城(上品野町)を築城		品野跡址 setopedia		
1221	承久3年	承久の乱			承久の乱 wiki	
1223	貞応2年	山口八幡社を造営中の地頭山田次郎重忠は承久の乱で自刃 村人が跡を継ぎ山口八幡社は完成			《伝》 《伝》	
1242	仁治3年	陶祖加藤四郎左エ門景正 が瀬戸で窯を開いた		加藤景正 wiki		《伝》
1247	宝治元年	鎌倉幕府の内乱「宝治合戦」 三浦一族滅亡(三浦氏の乱)		宝治合戦 wiki		
1266	文永3年	山田重親は国衙領八事迫(やごととはざま 八事丘陵)の下部組織を支配下においていたが、その子重康は八事迫の地頭職に任じられ、八事迫の御器所を 実質支配していた その兄弟の親氏は鳥原邑(中品野・鳥原)の地頭職に、康親は山田郡上菱野、 下菱野の地頭職に就任				
1288	正応元年	万徳寺(塩草町)創建		万徳寺 setopedia		
1333	正慶2年	鎌倉幕府滅びる(1185～)		鎌倉幕府 wiki		
1336	建武3年	覚源禅師、弟子の聖眼と共に尾張国水野に来たり、炭焼窯の跡に庵を造る (すなわち現在の定光寺なり)				
1337	建武4年	南北朝時代(～1392) ・南朝:延元2年 ・北朝:建武4年		覚源禅師 wiki		南北朝時代 北朝は光明天皇(足利尊氏が擁立)、南朝は後醍醐天皇の2つの 朝廷が存在した時代 1392(元中9)年まで続く



山口八幡社 (八幡町・山形町)

三浦氏の所領であった尾張国山田郡の菱野、尾張国知多郡では尾張源氏の山田氏 や水野＝小川氏の復権が許され、山田重親(山田重忠の孫、重継の子)が菱野の地頭に就任



太子山 万徳寺 (塩草町)

覚源禅師、聖眼ト共ニ尾張国水野ニ来タリ、炭焼竈ノ跡ニ庵ヲ結ブ
(即チ現在ノ定光(寺)ナリ)

南北朝時代 北朝は光明天皇(足利尊氏が擁立)、南朝は後醍醐天皇の2つの
朝廷が存在した時代 1392(元中9)年まで続く

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1340	興国元年	覚源禅師 應夢山定光寺創建七堂成就 《定光寺誌年表 年代記》以下《定》 定光寺 wiki 定光寺 setopedia	信濃の後醍醐天皇第八皇子宗良（むねなが）親王の臣戸田弾正宗忠が、その重臣水野左近忠勝・岩村次郎利房・村上勘助・中山新之丞などを伴って信州伊那郡大河原城より、尾張国山田荘宇治里邑（うじさとむら）に移って居城を構え氏神を祀り、地名を科野（しなの）に改めたと《寛文景光記》に記されている 更に同書は下品野神明宮の条に『元は尾張国山田荘宇治里邑と名付……石神と祝い奉り、村号を改めて科野という』と記し、信濃国（しなののくに）との深い繋がりを伝えている 《品野の地名設立過程 戸田修二著》 尾張国山田郡の山田氏は三河に移り、南北朝の戦乱でこの地方は、領主の空白地帯となっていた 水野致秋の子致高は、入尾城（下水野）に帰住したこの地は一面が湿地で目鼻石の辺を湖尻または野尻と呼び、領主の水野致高は野尻殿と呼ばれた 尾張国は土岐氏の失脚以後、1403（応永10年）から斯波氏の領土となった
1347 ～70	正平元年 ～25年	戸田弾正宗忠 水野左近忠勝他の臣と共に信州から品野に移住 《伝》 戸田弾正宗忠 落合城を築城	
1351	正平5年	土岐頼康、尾張国守護に就任 土岐頼康 wiki 足利尊氏 wiki	
1358	正平12年	京都の足利尊氏が死去、子である義詮（よしあき）が2代将軍となり、細川顕氏、山名時氏、斯波高経、吉良貞家らが帰順し評定衆に復権 水野致秋は足利一門の帰順と同じ頃、美濃・尾張・伊勢の守護、土岐頼康と弟の長山遠江守頼兼の推挙により復権、侍所の職に就任	
1360	正平15年	土岐頼康は伊勢・志摩守護職となる 雲興寺 wiki 雲興寺 setopedia	雲興寺 山門 雲興寺 鐘楼国登録有形文化財建造物
1384	至徳元年	天鷹禅師、赤津雲興寺を創建	

1390	元中7年	村上勘助 神明社(落合町)創建
1392	元中9年 明德3年	南朝の後亀山天皇が退位、幕府と和睦し、室町幕府が確立された ・南朝:元中9年(閏10月5日まで以降) ・北朝:明德3年 元号は明德に統一 黒田幸太夫勝胤(菊田氏始祖)葉栗郡黒田郷より中水野郷に移住し、歴代神職を勤める
1394	応永年中 ~428	落合城廃城
1397	応永4年	この年瀬戸に大地震 《雲興寺史》以下《雲》
1399	応永6年	この地方の荘官 南禅寺寺院の文献の記述に、応永6年(1399)尾張国国衙、正税、未進(未納)注文に三百文「瀬戸」未進雲門寮(禅宗)知行(良)と初めて瀬戸の名が登場
1401	応永8年 この頃	戸田弾正宗忠、香華院長寿寺(こうげいんちょうじゅじ・後の久雲寺)を創建 遣明使が頻繁に渡り、博多や堺の有力商人や幕府から陶法を究めるよう派遣された瀬戸の陶工など明へ渡る
1403	応永10年	美濃国の守護土岐氏は苗木遠山荘領の守りを尾張国の豪族水野頼致に要請
1412	応永19年	入尾城主水野致高は朝廷より従5位下(この官位以上を公家の官位という)備中守に就任
1425	応永32年	8月 大風・洪水 多数の人びとができ死 定光寺誌の依拠資料《公用抜粋等》以下《定》《雲》
1430	永享2年	8月16日 夜中に大風、翌昼止む 《定》《雲》 9月2日 大風前の如し 《定》 雲興寺二世 天先祖命和尚、浄源寺建立 《張州府志》 尾張国水野郷の入尾城城主、水野頼致 土岐美濃守持益に従い美濃国飛騨街道の野尻邑(中津川市付知町野尻)に移住

信州の豪族村上主理之介の後継村上勘助が勧請



神明社 wiki



神明社(落合町)

赤津の雲興寺開山・天鷹祖佑(てんようそゆう)禅師を開山として招請し曹洞宗に属した

入尾城主水野致高 入尾城にて死去
水野氏の菩提寺 臨済宗妙心寺派 小金山
感應寺(水北町)に埋葬される



入尾城(鹿乗町) wiki



浄源寺



浄源寺
setopedia



洞谷山 浄源寺(岩屋町)

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1444	文安元年	美濃領内にて守護代長江備中守高景と家宰職の齊藤氏が互いの領国の主権争いを始めた	
1445	文安2年	11月22日 夜中に大地震 11月22日 夜間に大地震、昼夜20日続く	《雲》 《定》
1449	宝徳元年	3月10日・12日 瀬戸、夜半に大地震あり、家屋に被害を受く 4月10日 夜間に大地震。12日午前また地震、地面に亀裂、家屋の壁・堀全て崩壊 11月まで時どき地震動	《雲》 《定》
1457	長禄元年	7月15日 大粒のひょう(梅の実ほど)が降る 中品野前田の庚申堂 創建 鳥原船山庚申堂 創建	《定》 《東春郡誌》 《伝》《岩屋Ⅰ》  松尾山城 wiki  落合城址 setopedia  応仁の乱 wiki  戦国時代 wiki  妙應寺 wiki  桑下城址 setopedia
1467	応仁元年	応仁の乱	全国の守護大名を巻き込んだ戦い始まる 応仁の乱はその後の戦国時代の幕開けとなった
1468	応仁2年	長江(永井)利景 桑下城築城 	美濃の齊藤妙椿が守護代の長江備中守高景の居城、松尾山城(不破郡関ヶ原町松尾)と長江景秀、利景父子の今須城を攻撃、長江一族は討死し離散の時、長江利景のみ生き延びて放浪尾張でも織田氏の権力争いが勃発して、勢力が行き届かない美濃と尾張の狭間である品野の落合城に仮住まいしたが、桑下城を築き移り勢力を張った 守護職斯波氏・守護代織田氏の統括する尾張国では、尾張上四郡(丹羽、桑名、中島、春日井)は岩倉の織田伊勢守、尾張下四郡(海東、海西、愛知、知多)は、清洲の織田大和守の一族で管理されていた、下四郡の3奉行の内清洲の織田弾正忠家(信定)は、小領主であったが領内に津島社や熱田社があり、社から豊富な資金を得られた  桑下城跡品野城跡 永井民部 seto-guidfe



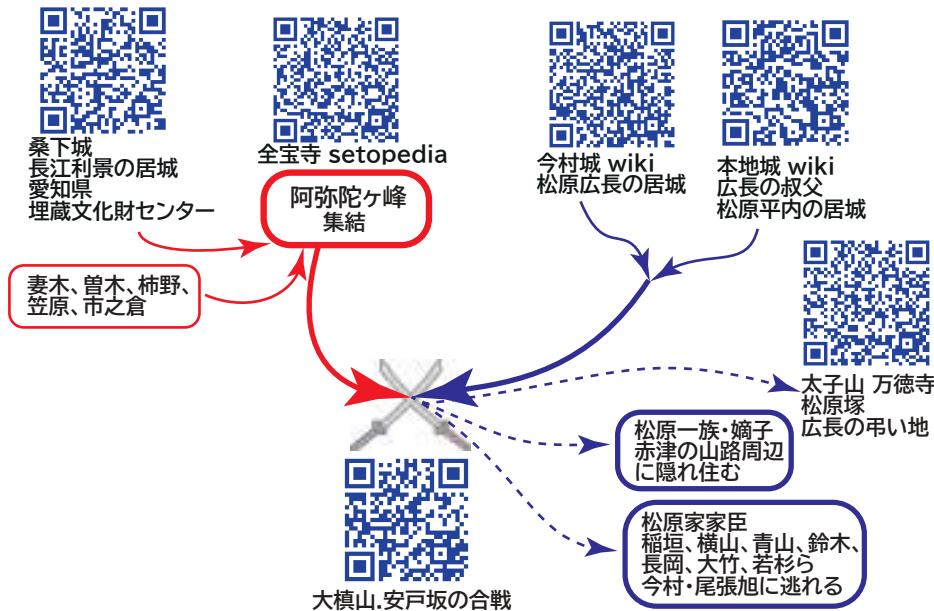
中品野前田庚申堂
曹洞宗浄源寺受持にして
本尊は青面金剛明王



鳥原船山庚申堂
学舎に金銅(ブロンズ)製の
青面金剛童子が安置

1475 文明7年 8月3日 大洪水で住民、牛・馬に被害 《定》
 1478 文明10年 正月9日 洪水 《定》

1482 文明14年 大槇山・安戸坂の合戦
 品野の桑下城主長江利景(永井民部少輔)、今村城主松原下総守広長との戦いに大勝利



長江軍は全宝寺の廃寺跡を利用し砦として築城し前哨とした美濃国の妻木、曾木、柿野、笠原、市之倉の軍を加勢に、大槇山の戦いから安戸坂(追分周辺)で松原軍と交戦になり、松原軍は敗北広長は自刃した
 広長の首は万徳寺に弔われ、これを松原塚と云う
 家臣の稲垣、横山、青山、鈴木、長岡、大竹、若杉らは今村周辺や尾張旭市へ逃れる
 松原一族と嫡子は赤津の山路周辺に隠れ住んだ

美濃国から長江、三河国から松原等が尾張国瀬戸、品野へ居城したのは、美濃、三河、尾張三国の境界が覇権争奪の場所であり、管轄する織田一族の抗争が続き手薄な瀬戸周辺ではこの戦を機に戦国時代が終わるまで戦場の地と化すこととなった



おおまきやま
 全宝寺 大槇山・安土坂合戦 看板

この頃 陶工集団の瀬戸離散(美濃離散)

1488 長享2年 6月1日 大洪水、住民、牛・馬に被害 《定》 瀬戸で大洪水 《雲》
 6月17日 夜間に大洪水、居所崩壊 《定》 瀬戸で夜中に大洪水 《雲》
 1490 延徳2年 蔭昌寺 下半田川に創建 《伝》
 1491 延徳3年 この年、飢きん 《定》 瀬戸で飢きん、死者多数 《雲》
 1492 明応元年 この年、国内荒れて死者多数 《定》
 1497 明応6年 8月 大地震 《定》 8月 午前 大地震 《雲》
 1502 文亀2年 8月末日 大風、倒木・家屋倒壊する 《定》

陶工集団の瀬戸離散

品野と瀬戸村の狭間にあった国衙領の馬が城(庄)の窯大將加藤太郎左衛門は、品野村の永井氏と今村の松原氏の戦乱の巻き添えを避けるため、美濃国の妻木城主の妻木氏の保護の下、城下に移り住んだ

他にも瀬戸や赤津からも陶工集団が続々と移り住んだ居住地は妻木城を要にして瀬戸の陶工集団を扇形に配置して窯大將が各拠点を守る体制をとった

瀬戸の戦乱で美濃に逃亡した陶工集団によって新たに窯が増え、妻木、下石(おろし)、五斗蒔(ごともき)、日向窯では瀬戸の窯とほとんど同様の陶器が焼かれていた (美濃桃山陶=茶陶)

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1503	文亀3年	この年、大干ばつで大地枯渴、飢きんで死者多数 5月20日 大粒のひょう(梅の実ほど)が降る	《定》《雲》 《定》《雲》
1504	永正元年	この年、なが雨、大飢きんで多くの人が餓死	《定》《雲》
1505	永正2年	この年、飢きん	《定》
1508	永正5年	11月19日 大雪	《定》
1510	永正7年	8月7日 大地震、仏殿・居所・山門一瞬に倒壊 瀬戸で大地震	《定》 《雲》
1521	大永元年	8月26日 瀬戸に台風	《定》《雲》
1522	大永2年	8月1日 大洪水 8月4日 又大洪水、人民流され溺れ数しらず 8月1日・4日 瀬戸、大洪水のため多くの死者を出す	《定》 《定》 《雲》
1524	大永4年	4月9日 ひょう 4月28日より長雨 5月13日・28日 瀬戸で大洪水 5月13日・28日 瀬戸、大洪水	《定》 《雲》
1527	大永7年	8月5日 瀬戸、大洪水で多くの死者	《定》《雲》
1528	享禄元年	6月7日 瀬戸、大干ばつで大地枯渴	《定》《雲》
1529	享禄2年	7月・8月 多くの牛が死ぬ 徳川家康の祖父、松平清康は三河を統一しその勢いで織田方の品野攻めを命じた 廃寺全宝寺を三河の全久院の僧を招いて開山	《定》 一族の桜井松平氏、松平信定は尾張上四郡の織田伊勢守守護代の家臣品野城主、坂井秀忠(一宮出身)を攻撃し、自刃させ桜井松平氏の居城とした 松平氏の重臣戸田家光(落合城の祖の末裔)は守護代の家臣で岩倉出身の桜木(桜井)上野介を攻めて敗走させ、落合城は戸田氏の居城となった この時、桑下城の城主永井氏は松平氏の臣下として服属した 自刃した織田信秀の家臣坂井秀忠の族人が片草に隠れた 全宝寺 阿弥陀如来を本尊とした
1532	天文元年	5月・6月 西にすい星観測、その長さ25尺(約7.5m) 6月・7月 大干ばつ、大地枯渴	《定》 《定》 《千年旅》



松平信定

1534	天文3年	6月21日 午後に大地震 8月3日 夜に大雨、住民でき死 三河松平氏配下であった品野城主松平家重と落合城主戸田家光は水野郷の一色城に不意に攻め寄せ、城を焼き討ちして引き揚げた	《定》
1535	天文4年	品野3城の惣領である松平清康が尾張国守山城内(守山区市場)において、家臣に斬られ横死	
1540	天文9年	春夏に 大疫(疫病流行)	《定》
1541	天文10年	瑞應山祥雲寺 櫻井内膳信定が創建 8月10日 大風	《寺伝》 《定》
1547	天文16年	水野右京亮致正(みずのうきょうのすけむねまさ)は織田信秀を頼り尾張国水野の上郷(瀬戸市上水野町)に帰郷した	
1550	天文19年	8月2日 瀬戸、大雨洪水	《定》《雲》
1551	天文20年	6月 霖雨(なが雨)	《定》
1555	弘治元年	7月15日・9月19日 大雨 養海上人が菩提寺を中興	《定》 《本尊年代由緒調-大正6年編》《市史》



東照上人塔(上品野町)

上品野の菩提寺本堂に通じる石段下の「東照上人塔」と刻まれた石碑
弘治3年(1557)建立、養和元年(1181)に没した東照上人が開基したと記されている
大正6年(1918)に編まれた「本尊年代由緒記」では、弘治元年(1555)養海上人が中興したと記されている

一色城主「磯村左近尉将監清玉」は、感応寺の和尚と囲碁の対戦中で敵来襲の急報を受けたにも関わらず碁を打ち続け、終わると余床の菖蒲ヶ沢まで馬を飛ばし、奮戦したが敗死した
城の伝説に、俱姫という姫が家来の宝物の金の鶏を抱き大井戸に身を投げた
それ以来、元旦の早朝に鶏が山頂から時を告げるようになったと云われる

この「守山崩れ」により、松平氏は弱小大名になり、清康の子、即ち家康の父弘忠は、まだ幼少で隣国の駿河の今川義元に服従したことで三河国は安堵された
これにより松平臣下の品野3城も今川義元の配下となった
この考証として品野の陶工が今川義元に天目茶碗を献上したと伝わっている

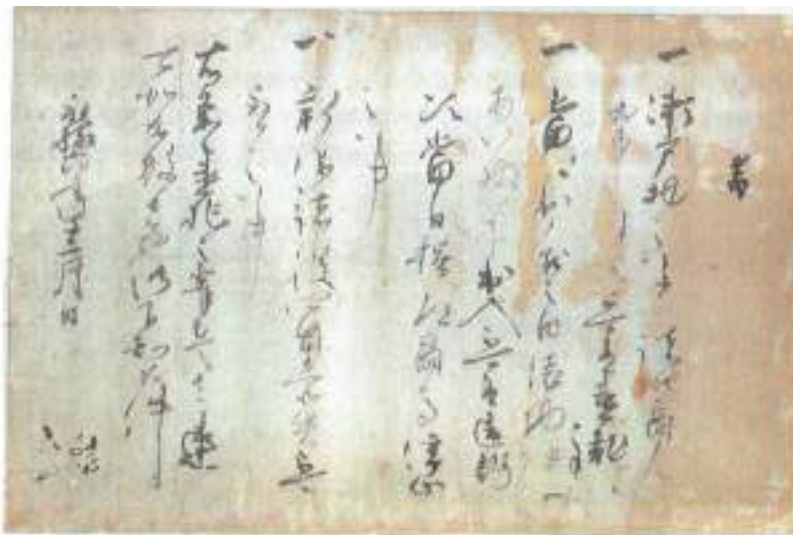


瑞應山 祥雲寺 (上品野町)本堂位牌堂
1541年、櫻井内膳信定創建

位牌堂には、櫻井内膳定信の家臣桑下城城主の長江宗勝(性高院殿寿山宗勝大居士・天文16年没)の位牌がある
長江宗勝は、長江利景の子孫、櫻井内膳信定は、松平清康が 死した「守山崩れ」により、家臣の長江宗勝に品野三城を預け、三河の櫻井へ帰ってしまったので、長江利景の創建ではとの説もある

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1556	弘治2年	8月24日 稲生(いのう)の戦い(西区名塚)が起こる 同日、落武者13名、瀬戸追分(現:西十三塚町)で自害  十三塚 seto  十三塚(とみつか)地藏堂 (西十三塚町)	織田信長と弟の信行との家督を巡る争いは、信長方軍勢700人信行方手勢1000人と瀬戸の菱野、今村、尾張旭の領主である林秀貞と弟の林通具他一族の手勢700人、合わせて1700人による抗争は、かうじて信長方の勝利に終わる この合戦で水野の一色城の磯村左近尉将監(2代目)と瀬戸城の加藤光康は信長方に味方し、今村城主の林吉之丞や狩宿城主林弥助信勝、守山城の城主織田信光(信長の叔父)、品野城主松平定信は信行方に味方したが、戦いに敗れた敗走中、瀬戸の追分で13人が自害した 残った1人が合戦の状況を松平定信に伝えるため逃れたのを宮脇の村人が竹やりで打ち取った このことから土地の住民は、祟りを恐れ、「端午の節句に鯉のぼりをあげない」と云う言い伝えが残されている
1557	弘治3年	夏 大旱(干ばつ) 8月26日 大風	《定》
1558	永禄元年	織田と今川・松平の間で 「永禄品野合戦」起こる  山崎城址 seto 松平監物 中品野森屋敷八劔神社を 重修した 《張州府志》  山崎城跡(品野町8丁目)の三基の宝篋印塔	織田軍は連日連夜品野城を激しく攻めたが落とすことができず逆に嵐の深夜、出城として築いた山崎城を品野城主松平信一と落合城主戸田直光に夜襲され、織田方の将竹村孫七郎ら50人を打ち取られ敗走した 山崎城址は五輪山とも呼ばれ、三基の宝篋印塔が祀られている ※宝篋印塔(ほうきょういんとう) 供養塔、墓碑塔として建てられる塔
1559	永禄2年	全宝寺 曹洞宗に転宗、 本尊は阿弥陀如来	
1560	永禄3年	桶狭間の戦い 全宝寺は兵火により 堂宇を焼失した	織田信長は、桶狭間の戦いで今川義元を打ち破り、これから後は瀬戸や品野は信長の支配下となった 《千年旅》
1561	永禄4年	久龍庵(後の久雲寺)創建  竜洞山 久雲寺 (落合町) seto  竜洞山 久雲寺 (落合町)	品野の領主となった信長の家臣林三郎兵衛正俊は、雲興寺14世居雲宗準を招き、長寿寺末寺として「久龍庵」を創建、薬師如来を安置 今日の久雲寺の実質的開創と言われる 久雲寺 《改訂増補瀬戸ところどころ今昔物語》 以下《今昔物語》

1563 永禄6年 織田信長は瀬戸村に残った数少ない窯屋に尾張の市場へ陶器販売許可の『制札』を発布したが、瀬戸離散と陶業の衰退は止まらなかった
《東春郡誌》



品野町下品野、加藤新右衛門家に伝わる制札は、信長真筆と思われる花押が記されている

『制札は、原則として木製の立て札であるが、これを原本とした木の制札が瀬戸村の市日に建てられたものと想像してよいであろう。可成り損じているから、かろうじて判読できるもので、ひどく損じた箇所は、全然読めない。

それらの箇所を同家に伝わる写しによって補足し』……

これを現代文に意識すると

制札(法令発布)瀬戸

一、瀬戸物に関する規則

各地の商人が尾張国を往き帰りするには規則に従うこと

一、瀬戸村で交換市場にかける白俵物(依詰のせともの・しろものの意)や食塩、塩乾魚その他の物資の出入りは規則通りに行ない、市日の当日は、横道(不正取引)の商馬を停止する

一、新しく陶工を徴発して公用に使ったり郷質、所質(債務を履行しない場合は、所かまわず、所有物とする)を取ってはならぬ

右の条項に違反する者は、速かに処罰する

永禄六年十二月日 花押(信長のサイン)

1567 永禄10年 織田信長は美濃国を平定した
織田政権下、可児(土岐)を中心に周辺には多くの窯が築かれた

1574 天正2年 大平の総窯大将、加藤景豊に信長は普請奉行を任じ、産業、軍事用道路の土岐可児、久尻、久々利間の整備を各窯大将に指示した

信長の書状には国中の道路幅は本道3間3尺、脇道2間2尺、在所道は1間、高さは3尺で道の並木は松と柳と記されていた
この時代は尾根から尾根を道としていたが、この道普請は分窯に大変役立った(大萱の窯、久尻の窯)

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1576	天正4年	織田信長は瀬戸以外に窯を作ってはならないとの朱印状を瀬戸窯に発布 「天正2年正月12日 信長朱印」 《市史》	
1584	天正12年	上半田川金峰神社社殿造営の棟札 3月12日 祥雲寺所蔵の位牌に徳岩善隆庵主、俗名長江民部とあり、刑部 と父子の関係あるものの如し 《東春郡誌》 長久手合戦 《雲》	 小牧長久手の戦い wiki
1585	天正13年	小牧長久手の戦いで2代目加藤太郎左衛門の子息は、岩崎城を死守して討 ち死にした その兵の中に二百余名の陶工も参戦していた 戦場後から鎌倉時代から焼かれていた陶丸(とうがん)が出土している 下半田川秦川城(はたかわじょう)城代尾関弥右衛門 長久手で戦死	 関ヶ原の戦い wiki
1592	天正20年	11月29日 大地震 《定》《雲》	 上半田川金峰神社社殿
1596	天正20年 ～文禄5年	尾張国太閤検地 大松山全宝寺 雲興寺14世居雲宗準(こうんそうじゅん)が堂宇を再興し 曹洞宗の寺として中興開山	
1594	文禄3年	7月26日 大風 《定》	
1596	慶長元年	閏七(るんしち)月12日 大地震、死者多数 《定》	
1600	慶長5年	関ヶ原の合戦 《雲》	
1603	慶長8年	徳川家康、征夷大將軍に任ぜられ、江戸幕府を開く 《雲》	
1605	慶長10年	この年、大地震 《雲》	
1607	慶長12年	家康九男・徳川義直清洲に転封 尾張藩の初代藩主となる 下品野村慶長検地 《近世の瀬戸》	
1608	慶長13年	伊奈忠治、木曾川の堤を築造開始(御田堤)	
1609	慶長14年	名古屋城の築城開始 この頃、名古屋城築城用石材を運搬していた際、大松山全宝寺前の阿弥陀 坂が急傾斜の為、放置され後、寺院の石碑に利用されたと言い伝えがある	
1610	慶長15年	清洲の町をまるごと引っ越す「清洲越」が始まる 6万人の人と約100の寺社、67の町全てを清洲から名古屋へ移動《岩屋Ⅰ》 尾張藩「竈屋呼び戻し」で下品野村と赤津村に竈屋集団が戻る 5月5日 竈屋新右衛門・同弟三右衛門下品野村に工房を移す 《資料編参照:51頁》	 名古屋城築城用石材 石碑上部に加賀百万石前田家の 五徳印が刻まれている(全宝寺)
1612	慶長17年	名古屋城天守閣完成 キリシタン宗厳禁令 《資料編参照:51頁》 竈屋呼び戻し	 名古屋城築城用石材(矢穴石) (全宝寺)
1615	元和元年	尾張藩主 祖母懷の土乱掘を禁止	『天正年中瀬戸離散致せし万右衛門息、新右衛門、弟三右衛門(中略) 下品野村へ御召帰さる 其節御証文御名前、寺西藤左衛門様(中略) 原田右衛門様(中略)新右衛門、三右衛門へ下し置かる 御文言之を略す』 《陶器伝来記》
1620	元和6年	久龍庵の西隣へ長寿寺を移転名称を「龍洞山久雲寺」と改称 雲興寺第14世 居雲宗準大和尚 を勧請して法地開山	

1621 元和7年
1622 元和8年
1600 元和年間
年代

上半田川金峰神社社殿再建
蔭昌寺 外之原村(春日井)に移転
片草 公民館前
馬頭観音 一面二臂
①右『山道』左『善光寺道』②不明



馬頭観音 一面二臂
右『山道』左『善光寺道』

1625 寛永2年

尾張藩の農民移住禁止
西12月4日 上品野 稲荷神社 創建
《社伝》

1630 寛永7年

多聞山吉祥寺 雲興寺15世興南義繁
(上半田川町) によって吉祥庵と称し創建

1631 寛永8年

尾張藩 キリシタン57名処刑



入鹿池 wiki

1632 寛永9年

入鹿6人衆、入鹿池の築造を開始

1642 寛永19年

元旦 大雪、3尺5寸(約1.06m)
夏・秋霖雨(なが雨)・大飢饉(飢きん)、人民多く死す

《定》

《定》

1644 生保元年

尾張藩、加藤唐三郎に御庭焼きをさせる

1645 生保2年

藩内の石高を過去10年の平均年貢が4割になるよう概(ならし)高を改定

1647 生保4年

曹洞宗大昌山宝泉寺、赤津の雲興寺の末寺として寺本に創建

1650 慶安3年

9月3日 大洪水、尾張・美濃人馬多く溺死

《定》

1653 承應2年

閏6月6日夜 大風雨、尾張の家15500倒ル

《定》

1654 承應3年

4~7月 大旱

《定》

1655 明暦元年

8月3日夜風雨、9日大風雨、19日大雨・大風

《定》

1658 明暦4年

御窯屋三家成立(利兵衛・仁兵衛・太兵衛)
神明社 石燈籠(落合町・市内最古の石燈籠) 村上長次郎寄進

菩提寺の手洗鉢銘文に明暦四歳寅



稲荷神社(上品野町)



多聞山吉祥寺(上半田川町)

入鹿6人衆 小牧村の江崎善左衛門・上末村の落合新八郎と鈴木久兵衛・
田楽村の鈴木作右衛門・村中村の丹羽又助(又兵衛)・外坪村の舟橋七兵衛
(仁左衛門)の6人



宝泉寺 seto



神明社 石燈籠 seto



西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1660	万治3年	6月14日 大雨 定光寺霊樹亀岩石橋流失	2代尾張藩主徳川光友は御林方役所(春日井、愛知郡の山林の管理役)の初代奉行を水野権平正勝に命じた。以後代々世襲で明治維新まで続いた
1661	寛文元年	水野権平正勝、御林方役所の初代奉行に任じられる	
1662	寛文2年	5月1日 大地震	
1664	寛文4年	下半田川が定光寺領となる	
1667	寛文7年	9月 すい星、月を越え消えず 長さ一丈(約3m)余り	『左の四人之者、外所へ引越候様に仰付御座候故、所々引越し焼物職仕候 一、春日井郡半田川村へ 加藤利右衛門引越 一、濃州妻木村之内三本松へ 加藤源重 一、同州同村之内かじかいりと申所へ 加藤勘右衛門引越 一、同州新牧村へ 加藤庄右衛門引越』 《陶器伝来記》 下品野村家数40軒 人数284人 田35町4反2畝余 畑10町2反7畝余 高630石と記されている 尾張の人口375,918人
1667	寛文7年	『春日井郡瀬戸窯焼の者。同郡上水野村山の内経引越し居住仕居申候処、かまの洞と名付け、焼物職仕居住致し候処、其後(寛文7年)御林方役人衆の屋敷に相成申す筈に相定り候故』	
1671	寛文11年	寛文の下品野村村勢 《村々覚書》	
1685	貞享2年	下半田川八釘社の石灯籠	
1686	貞享3年	下半田川六地藏石仏	久雲寺火災 山門、観音堂、久龍庵を残して他の堂舎を消失
1688	元禄元年	下半田川観音堂再建	
1688~	元禄元年	下品野龍洞山久雲寺火災	
1704	~17年		
1700	元禄13年	笠原村上下両半田川村国境山境争論につき上申書	美濃国土岐郡笠原村尾張国春日井郡上下両半田川村国境山境争論につき 下半田川村上申書 春日井郡下半田川村 庄屋 孫九郎 組頭 長兵衛
1701	元禄14年	7月11日 両半田川村ト濃州笠原村トノ境論、両半田川村ノ勝訴トナル	
1704	元禄17年	申4月24日 片草薬師堂石造地藏菩薩立像	
1704	元禄17年		



下半田川観音堂再建

片草薬師堂 石造地藏菩薩立像
(市指定文化財/彫刻)

1705 寶永2年 8月 洪水による下半田川の破損箇所を郡奉行所へ取次ぐ 《定》
寂場山菩提寺 山門の阿形・吽形2体の仁王像(宝永2年台座墨書銘)製作



菩提寺 上品野町
setopedia

1716 正徳6年 6月 沓掛地区神明神社 再建の由 《伝》

1725 享保10年 4月 片草村上品野村山境証文
片草村上品野村山境＝村境争論に4ヶ村の庄屋が調停に入り最終的に決めた山境の証文

1726 享保11年 丙午3月 片草薬師堂石造薬師如来坐像



《千年旅》

1748 寛延元年 下品野 柴田家(柴田合名)の酒造り創業

明眸(柴田合名) seto

1749 寛延2年 上品野 瑞応山祥雲寺 雲興寺28世大興栢春により再興される

1752 宝暦2年 張州府志(宝暦2年現在)

1753 宝暦3年 定光寺墓地 青面金剛像(三猿が刻まれている)

1757 宝暦7年 5月8日 洪水 《定》

1761 宝暦11年 地藏堂(全宝寺)創建



青面金剛像

8月 洪水ニツキ、下半田川ノ損所ヲ郡奉行所へ進達ス 《定》



(阿形)



(吽形)

菩提寺山門
の仁王像

片草村上品野村山境証文
上品野村庄屋 与平治 印
他同断8名 片草村御庄屋中
右境論我々立合噺相済申候、
末世為証拠扱印判件上半田川
庄や安右衛門 印
下品野村庄や基兵衛 印
中品野村庄や長助 印
白岩村庄や作兵衛 印 《市史》



片草薬師堂
石造薬師如来坐像

片草薬師堂 石造薬師如来坐像(市指定文化財/彫刻)

山田莊府城東北6里～7里白岩村、片草村、上半田川村、下半田川村、沓掛村、上品野村、中品野村、下品野村 《張州府志(宝暦2年現在)》



全宝寺 地藏堂

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1762	宝暦12年	10月 尾張藩主 瀬戸、水野、品野など巡視	
1767	明和4年	7月12日 大洪水で雲興寺の諸堂宇破壊し境内地も流失 7月12日 大雨、洪水 水野川氾濫 下水野のほとんど流失 《雲》 《定》	10月26日 25日定光寺御寺に泊まりなされ、尾呂山、半田川、じゃがふち山を御上覧遊ばされそれより御道通りは中品野、下品野の村を御通り遊ばさる瀬戸村へ御なり道は、印所山より御入りなされ当地大昌山宝泉寺に御こやすみ遊ばされ……… 《水野史年表》
1770	明和7年	11月 沓掛・下半田川村、当年大干ばつ被害 白岩八王子神社参道の石窟内で祀られている役(えん)の小角(おづぬ)像 《定》	
1771	明和8年	洞谷山 浄源寺本堂内の鐘の銘	役の小角像(白岩八王子神社参道の石窟内)
1774	安永3年	鳥原の八幡神社大改修の刻印がある石碑(令和7年3月1日現地確認不明)	
1784	天明4年	窯屋の『一子相続』と『永大ろくろ一挺の制度』が水野役所に於いて指令された 《資料編参照:50頁》 閏(うるう)正月 近ごろ兩年困窮のため、当寺山内松枯木を売払い、沓掛下半田川村の困窮者に支給する 3月1日 旧冬より兩村の人びと困窮のため、当寺蓮池前に施行小屋出来この日より接待(応対)をする 《定》 《定》	洞谷山 浄源寺本堂の鐘
1785	天明5年	上半田川 長江喜平治没 喜平治墓の喜平治大薩理 「天明の大飢饉」凶作数年続く 《水野史年表》	
1792	寛政4年	春日井郡下品野村絵図 上品野村絵図 下半田川村絵図 片草村絵図 上半田川村絵図 庄屋 四郎兵衛 与頭 弥右衛門 庄屋 文右衛門 組頭 留右衛門 庄屋 彦右衛門 組頭 久右衛門 庄屋 半左衛門 庄屋 伊右衛門	天明の大飢饉 wiki

1793	寛政5年	11月 下半田川村御林の内盗伐につき村にて盗人召捕願書	
1795	寛政7年	卯6月6日 下品野村中島の秋葉山常夜燈(市内で最古の常夜燈) 建立 (津島神社境内)	
1797	寛政9年	白岩の秋葉山常夜燈(市内で2番目に古い常夜燈) 建立 奉上秋葉山常夜燈 平石村中 若き者	
1798	寛政10年	中品野前田の秋葉大社常夜燈(市内で3番目に古い常夜燈) 建立 秋葉大社常夜燈の斜め向いに馬宿と茶店を兼ねた与吉の馬宿があった (信州飯田街道)	
			
		中品野前田の秋葉大社常夜燈	白岩の秋葉山常夜燈
1801	享和元年	久雲寺を雲興寺第31世・太謙遜翁 (たいけんそんのう)大和尚が再興開山し 諸堂宇を再建	
1802	享和2年	瀬戸・赤津・下品野に焼物御蔵会所できる 下品野村 市場島の戸田四郎屋敷(油屋、馬宿、塩問屋)火事で焼失	
1808	文化5年	久雲寺境内 青面金剛像	
1812	文化9年	下半田川秋葉山常夜燈創建	
1816	文化13年	8月吉日 全宝寺境内 青面金剛像(台石に三猿を刻む) 丙子11月吉日 赤津道から三叉の辻へ向かう分れ道の庚申塚	
1822	文政5年	3月 千倉石掘方と水車方との職分区分につき請書 品野村村勢 人口2,189人、戸数524戸	半田川 金右衛門 上品野 文右衛門 下品野 和七
1824	文政7年	下品野東島観音堂建立	
1825	文政8年	下半田川一の瀬橋東詰め 馬頭観音 三面六臂	
1826	文政9年	尾張藩 焼物御蔵会所を瀬戸村に統合	
1827	文政10年	6月22日 雲興寺台風の被害受く	《雲》



下品野村中島の秋葉山常夜燈(津島神社境内)

下品野村中島の秋葉山常夜燈は、明治24年頃、国道248号建設にあたり10m程西の現在地へ移設された

久雲寺 本尊は「釈迦牟尼如来像」 その右に「薬師如来像」
本堂内西側に「楊柳観世音菩薩像」を安置



青面金剛像
龍洞山 久雲寺 (落合町)境内



青面金剛像
大松山 全宝寺 (品野町2丁目)境内



下半田川一の瀬橋東詰め
馬頭観音三面六臂



品野町5丁目観音堂

西 暦		元 号		郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他	
1827	文政10年	妙耀尼全宝寺を再建 丁亥年 久雲寺境内の庚申塚と馬頭観音 丁亥年 嶋田稲荷境内の庚申塚				
1828	文政11年	片草路傍常夜燈並び馬頭観音 三面六臂				
1832	天保3年	上半田川吉祥寺 馬頭観音一面二臂・立像 右『六月六日』左『上半田川村』 喜□□				
1835	天保6年	太田周作先生の自宅で寺子屋 9月 上品野村清左衛門倅周作医術修行につき代官へ届け所並びに医 術伝授者今枝数馬よりの受入届写				
1837	天保8年	11月 上品野村清左衛門倅周作医師開業願所書 同 上品野村清左衛門倅周作医師開業につき師匠今枝数馬よりの受合状				
1840	天保11年	上半田川多聞山吉祥寺 雲興寺34世瑞應慧琳が再興				
1841	天保12年	6月 春日井郡下品野村絵図 庄屋 善 七 組頭 惣右衛門 中品野村絵図 庄屋 新右衛門 組頭 源蔵 白岩村絵図 庄屋 喜兵衛 組頭 安蔵 片草村絵図 庄屋 団 像 組頭 猶吉 下半田川村絵図 庄屋 藤吉 組頭 与右衛門 同断 喜助 沓掛村絵図 庄屋 藤吉 組頭 与右衛門 同断 喜助 「尾張名所図会」尾張藩主の命で岡田文園・野口梅居編纂				
1842	天保13年	下品野天白社の常夜燈建立				
1843	天保14年	尾張志 天保14年現在				
1847	弘化4年	4月10日 大風激しく、寺内倒木など破損個所多し 窯の秋葉山常夜燈建立			《定》	
1848	嘉永元年	7月25・26日 当寺領両村、大干ばつにつき雨乞い祈祷 10月6日 当寺領両村干ばつにつき 沓掛村へ2石8斗、下半田川村へ3石3斗支給 白岩村 八王子神社創建 祭神 須佐之男命の八王子			《定》 《定》 《伝》	山田莊東のはてなる里にて名古屋より 7里餘丑寅の方、白岩村、上半田川村、 下半田川村、沓掛村、上品野村、中品野村、 下品野村、 名古屋から東北6里半から6里あり 《尾張志(天保14年現在)》
1849	嘉永2年	4月 春日井郡中品野村絵図 庄屋 源蔵 組頭 鉄蔵 上半田川村絵図 庄屋 善兵衛 組頭 儀助				

久雲寺境内の庚申塚と馬頭観音

嶋田稲荷境内の庚申塚

上半田川吉祥寺
馬頭観音一面二臂・立像

窯の秋葉山常夜燈建立

1850	嘉永3年	7月21日夜 大風にて損所・倒木・潰所など、夫々申達す	《定》
1851	嘉永4年	10月 鳥原庚申堂前の庚申塔奉納	
1852	嘉永5年	白岩八王子神社建立 石段は知多佐布里村加藤米吉	
1853	嘉永6年	6月14日夜 大地震で役所の見廻あり。津島・四日市辺り大被害 11月4日 大地震で寺社方・目付方・作事方の見廻あり	《定》 《定》
1854	嘉永7年	4月 春日井郡上品野村絵図 庄屋 重蔵 組頭 佐兵衛 6月 沓掛村絵図 庄屋 初助 組頭 善左衛門 同断 長九郎	
1854	安政元年	11月4日・5日 大地震、洪浪に付、寺社に於て祈念すべき旨、燭あり、末山に達す	《定》
1855	安政2年	下品野村 窯株 7月29日 8月20日 大水・大風・洪浪につき損所・倒木・潰所など申請す 役所より見廻りあり 9月23日 下半田川村へ2石8斗、沓掛村へ2石 施物として遣す	《定》
1856	安政3年	白岩八王子神社 馬頭観音(④)	
1857	安政4年	中品野八劔社 馬頭観音(板碑)	
1860	万延元年	5月11日 大風につき損所・倒木など申達す 11月 下半田川八劔社の裏山の庚申碑	《定》
1861	文久元年	白岩八王子神社 馬頭観音(⑤)	



白岩 八王子神社

下品野村窯株 総株数51の内、本業焼23、染付焼28

白岩八王子神社 参道踊り場 馬頭観音(一面二臂・立像)
右『村中安全』左『安政三辰十一月十八日』(基)馬頭観世音



白岩八王子神社 馬頭観音

白岩八幡神社
馬頭観音
製作年等
記載頁

- ① 記載不明
- ② 28頁
- ③ 27頁
- ④ 21頁
- ⑤ 21頁

中品野八劔社 馬頭観音(板碑)右『安政四年』 左『巳子月』 中『南
無馬頭観世音菩薩』

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1861	文久元年	中品野赤津道 馬頭観音	
1862	文久2年	8月18日 下半田川花川橋 馬頭観音 下半田川妻神(さいのかみ)社再建	
1864	元治元年	長州征討 尾張藩主 徳川慶勝 征長総督となる	
			
			
		大政奉還	
1867	慶應3年	10月14日-15日 大政奉還 (新暦:11月9日 第15代将軍徳川慶喜政権返上を天皇に奏上 11月10日 天皇、奏上を勅許)	
1868	慶應4年	3月14日(旧暦) 朝廷「五箇条の御誓文」を渙発(かんぱつ) 4月21日 「誓詔」に基き、管制を改め、太政官を7官となし、三権を分掌せしめ、又地方を分かちて府・藩・県となし、府県に知事を置き、藩は旧制により藩主をして之を治め」させることを発表 4月24日 兵部省軍務局 全国各藩に石高に応じ徴兵を出すよう指令 7月 水野代官所を廃止	
		8月8日 藩内に3総官所を置き東方総官所を元の水野代官所に配置 10月23日(旧暦:9月8日) 元号を明治と改元(一世一元の詔)	中品野赤津道 馬頭観音(一面二臂・立像) 右『赤津道』 左『文久元年六月吉日』 下半田川花川橋西詰め 馬頭観音(一面二臂・立像) 村中安全 大政奉還に際し、尾張藩侯版籍を奉還 名古屋藩と改称 廃藩置県で三河裁判所(豊橋)が設置され三河国内には、岡崎、西尾吉田(のち豊橋)、刈谷、拳母、田原、西端、西大平、岡部(のち半原)、福島(のち重原)と合計10藩が存在したが、1871年(明治4年)7月の廃藩置県でそれぞれ県に改められた 片草村御林切起場起方願書 東方御役所 片草村 庄屋 理左衛門 (御林山の起方＝開発を願ったもの) 《市史》 諸藩は常備兵の他更に一般人民より一定の兵員を徴集して差出すよう指令 兵部省は全国4鎮台の制を設け、名古屋に東京鎮台第3分営を置き名古屋、大垣安濃津の6番大隊と称した 名古屋県 郡を地方行政上独立させた 全国を八大学区とし、区毎に大学校を各1校置き、1大学区を32中学区として各学区ごとに中学校を1校置き、中学校区を200小学区に分けて各学区毎に小学校を置くと定めた 本郡に設けられたるものを春日井郡出張所とし、春日井郡一帯の政衙とし、その位置を中水野村より小牧村に移動
	明治元年		
1870	明治3年	3月 片草村御林切起場起方願書 10月 名古屋藩を名古屋藩庁に改称 11月13日 太政官達により徴兵規則を制定	
1871	明治4年	4月 戸籍法を制定 7月14日 廃藩置県の改革を開始 7月19日 名古屋藩庁は廃され名古屋県となった 8月 「学制」を頒布して学区を定め、同時に太政官布告を以て学事奨励に関する書を発し国民教育の趣旨を天下に明らかにした 8月29日 東方出張所を廃止、これを各郡出張所と改称 9月1日 各郡内の政庁と改称	

1871 明治4年

11月 名古屋・犬山両県を廃して名古屋県を設置
11月27日 額田県と愛知県を合併し尾張七郡会所を名古屋本町旧町方役所に移して尾三各郡会所と称することになった
12月 名古屋県は名古屋鉄炮町に郵便役所を設置



壬申戸籍 wiki

1872 明治5年

1月21日 各郡出張所を撤廃
1月 全国戸籍調査・壬申(じんしん)戸籍
3月25日 春日井郡の関係各村庄屋は小牧村玉林寺へ集合し、大庄屋の選挙を実施
3月28日 名古屋県は、票を開札し獲得結果数に応じて各大庄屋を任じた
4月2日 名古屋県を愛知県と改称
4月 上品野村で長江兵藏、長江松十、長江惣吉、深見作助、長江惣七等が共同窯を築いて陶業を始めた
《資料編参照:51頁》
沓掛村上内垣外(かみうちがいと)の観音堂に義校開設
(8月2日に学制が發布される)
9月29日 区画章程を始めるのに県の全管を6大区・90小区に区画分割



1872稲荷さん奥の斜面で陶業を開始
稲荷さん奥の斜面を利用して陶業を開始した、窯跡は現存しない

大庄屋(重立役・副役)は廃止され、正・権区長とその下に戸長を置くこと副になった第三大区に属する小区18小区で春日井郡に関する者は以下の通り

◎第3大区会所(春日井郡全管)所在 名古屋元成瀬上屋敷

権区長 上水野村 加藤治郎右衛門

○第15小区 戸長 小幡村 大島嘉蔵

戸長 上水野村 加藤邦太郎

小幡村 猪子石村 大森村 森高新田 印旛村 新居村

瀬戸村 今村 美濃之池村 狩宿村 瀬戸川村 井田村

○第18小区 戸長 下水野村 加藤鎌三郎

戸長 上水野村 多門成春

上水野村 中水野村 下水野村 沓掛村 下品野村 中品野村 上品野村

赤津村 下半田川村 上半田川村 白岩村 片草村 計12ヶ村

大庄屋二人の内一人を重立役とし、一人を副役とした

小牧会所(83ヶ村連合) 所在 春日井郡小牧村

重立役 上條村 林 金兵衛

副 役 小牧村 江崎 祐八

上水野会所(50ヶ村連合) 所在 上水野村

重立役 上水野村 加藤治郎衛門

副 役 久木村 吉田 吉蔵

下小田井会所(105ヶ村連合) 所在 下小田井村

愛知県は郡の地方行政を円滑に実施するために一郡に二～三ヶ所の村々の会所を設置し、大庄屋を一会所に二人宛決めて村々の願いや届事の取次等を行うよう布達

《改訂増補瀬戸ところどころ今昔物語》以下《瀬戸今昔》

本郡は第3大区となり、従来の各会所を廃し、一郡一会所としてこれを総合し尾張七郡会所として、その政衙を名古屋元成瀬上屋敷に設置

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1873	明治6年	5月 愛知県は管内を10中学区 2,100小学区と定め、各中学区に210校の小学校を創立する計を立て、まず600校を建設する事を決定 品野地区6ヶ村(下品野、中品野、上品野、白岩、片草、上半田川)で六ヶ村組合立同帰学校「第3番中学校区61番同帰学校」が上品野村祥雲寺に開設 11月28日 太政官第62号布告で、徴兵は国民の義務にして年20歳に至る者を徴し、陸海軍に充てしむる者なりとの徴兵告諭を發布	 瑞應山 祥雲寺 (上品野町)
1874	明治7年	1月 官民往復の公書を郵便に託すべき心得方6ヶ条を布達 1月 第30番東明学校査掛出張所 観音堂にあった義校を出張所に移行 5月 小学校の教科書を統一する布達 布達:明治19年以前に發布された省令・府県令などの行政命をいう 6月 第50号達を以て春日井郡内小牧、勝川、瀬戸、内津に郵便局を新設 上半田川にて長江古衛門開窯 《資料編参照:51頁》	品野地区6ヶ村には「3番中学校区61番同帰学校」が上品野村祥雲寺に開設 初代校長は太田周作 教師3名 男子生徒130名・女子生徒17名・授業料は月20銭
1875	明治8年	3月 東明学校査掛分校 出張所を廃し、査掛分校とした	
1876	明治9年	3月 郵便為替を開始 7月 上品野学校(上品野、白岩、片草、上半田川4ヶ村組合立) 9月 品野学校(中・下2ヶ村立)を下品野村火の見下付近の借入建物に移動 上半田川分校開設 上品野・稲荷神社境内に「磁器創業の碑」建立 《資料編参照:51頁》	 品野学校(中・下2ヶ村立)を下品野村火の見下付近の借入建物の推定箇所
1877	明治10年	1月1日 警察第1方面名古屋出張所第3分署(勝川)第3巡查屯所を瀬戸村に置く 2月22日 警察出張所を警察署及び屯所を分署と改称 名古屋警察署 勝川分署瀬戸交番所と改めた 2月 西南の役 名古屋鎮台第1～3大隊は転戦功を奏し9月24日賊軍を殲滅し凱旋 下品野村より1名従軍(下品野村神明社 日露戦役忠魂碑) 7月30日 名古屋警察署瀬戸分署と改称 博愛社(後の日本赤十字社)創立 《資料編参照:50頁》 第3中学区第138番赤津学校査掛分校 日本赤十字社の歴史・沿革	会所を改めて郡区役所とし各郡区内に各戸長を置き、同日戸長選挙法を定め町村限り之を公選とす この時郡長の職に就いたのは天野佐兵衛で、郡内村落の合併を実施 瀬戸川村・井田村・狩宿村を合併し三郷村、春日井原新田・長斎新田を合併して春日井村など本群管区管内13ヶ村を減じ111ヶ村となる
1878	明治11年	5月 初の愛知県会議員選挙行われる 7月 太政官布告第17号(郡区町村編制法)郡役所、郡長(官選)設置 参考:明治23年5月17日法律第36号により改正 12月20日 愛知県布達甲第190号(愛知郡誕生)を發布 12月27日 愛知県布達甲第197号にて愛知郡役所の事務を開始	

1879	明治12年	下半田川村の山林を村で買受け 上品野学校 上品野村北島に新校舎建設(上品野、白岩、片草、上半田川の4ヶ村組合立) 上品野祥雲寺から移転 12月 第3中学区第138番赤津学校沓掛分校を 第3中学校第30番小学掛川学校に改称(学制改革により校名変更独立)
1880	明治13年	2月 春日井郡を東西2郡に分け郡役所を設置 信州飯田街道(中馬街道)の坂瀬坂～雨沢間の尾根道を白岩・片草から雨沢へ変更し馬車が通れる道を切り開く 下品野村全宝寺に隣接する信州飯田街道(中馬街道)阿弥陀坂の峠を馬車が通れるよう1m以上掘り下げる
1881	明治14年	下品野村窯口に戸田庄三郎直信が銭湯を創業(銭湯一人四銭) (後日清水洞島の祇園祭用の山車を収納する倉庫を提供) 《平成6年5丁目観音堂再建寄付者芳名板》
1882	明治15年	下品野村東島観音堂 道普請などで行き場の無い 馬頭観音等を集め建立 下品野で「山善」陶磁器問屋を創業
1883	明治16年	9月 瀬戸陶器館(舜陶館)竣工 瀬戸、赤津、品野の陶磁器を陳列、販売 掛川学校下半田川分教場 八劔社南に開設、下半田川学校と称した
1884	明治17年	片草 路傍の常夜燈並びに三面六臂の馬頭観音の建立
1886	明治19年	小学校令で尋常4年義務となる
1887	明治20年	上品野学校と品野学校統合して尋常小学校中品野学校になる 小学校簡易科半田川小学校創設
1888	明治21年	4月17日 法律第1号市町村制を発布

阿弥陀坂の峠を馬車が通れるよう道路だけ1m以上掘り下げた掘割①と掘割後②の比較



全宝寺阿弥陀坂
掘割①

信州飯田街道馬車道(昭和2年東大水文学撮影 2024カラー処理)



全宝寺阿弥陀坂
掘割後②

2024撮影の全宝寺阿弥陀坂(品野町2丁目)



路傍の常夜燈並びに馬頭観音(片草町)

下品野神明社(落合町)境内の
このあたりに在った芝居小屋が
尋常小学校中品野学校となった



下品野神明社(落合町)境内

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1889	明治22年	2月11日 大日本帝国憲法公布 衆議院議員選挙法を以て、直接国税15円(現価30万円程度)以上納付する者に選挙権が与えられた 東春日井郡に於ける有権者1200名 10月1日 愛知県に市制・町村制を施行 掛川村(大字下半田川・大字沓掛) 上品野村(大字上品野・大字白岩・大字片草・大字上半田川) 下品野村(大字下品野・大字中品野) 瀬戸村 簡易科小学白岩学校創設 久雲寺参道石段馬頭観音	 久雲寺 参道石段馬頭観音(一面二臂・立像) 右『明治22年』 郡は行政代議の上に独立し、純然たる自治体となった 東春日井郡の町村数は1町40ヶ村、108大字 《東春郡誌》
1890	明治23年	1月 教育勅語下賜 5月17日 法律第36号で「府県制」「郡制」を交付 参考:明治11年7月太政官布告第17号 (郡区町村編制法)の改正 8月 4丁目中島津島神社幟旗用石具奉納 8月 白岩簡易学校新築完成 中馬街道の竣工式を深川神社にて実施① 第1回衆議院議員総選挙 11月29日 大日本帝国憲法施行	 吉祥寺馬頭観音 ①江戸時代、信州飯田街道と呼ばれた街道が明治期に中馬街道となった 其の後、荷役の方法が、馬の背に載せる方法から荷馬車に進化した 大正9年郡道瀬戸岩村線、 昭和31年主要地方道瀬戸中津川線、 昭和51年国道363号と呼称の変遷を経て、 今に至っている
1891	明治24年	4月 今井鎌三郎 中品野学校 訓導兼校長に奉職 10月25日 急激なる強震あり 10月28日 濃尾震災発生② 上半田川吉祥寺 馬頭観音(一面二臂・立像) 右『あめざわ道』左『善光寺道』	②濃尾地震・10月28日午前6時38分50秒に発生した大地震は、岐阜県大野郡根尾村付近を震源とし、「震域殆ど全国に及んだ」 安政年間以後においては、本国稀有の大震災で、測候所の地震計破損し上下動は1尺2寸、水平動は、1尺8寸8分なり 「以後1ヶ月間に激震1回、強震44回、弱震126回、微震715回、合計886回の多きに達せり」と記されている 1891頃 248号横断歩道東に有った常夜燈 (津島神社・品野町4丁目)
1892	明治25年	1月29日 瀬戸村が町制施行で瀬戸町になる 10月1日 第3中学区第30番小学沓掛学校から掛川尋常小学校に改称 11月 下品野村立下品野尋常小学校創立 初代校長今井鎌三郎 下品野に新中馬街道(現国道248・363)建設 下品野で「丸由」二代目戸田芳太郎 屋敷・店を移転し 陶磁器専門問屋創業 中馬街道の県道への組み替えにつき請願案	 今井鎌三郎先生顕彰碑(岩屋町) 《東春郡誌》
1894	明治27年	上品野学校設立のため稻荷神社に役場とともに 建設始まる 7月25日 日清戦争開戦	上品野村立下品野尋常小学校へ校名変更 《市史》



日清戦争
1894・明治27年7月25日～
1895・明治28年4月17日
(日清講和条約下関条約)

1895	明治28年	10月1日 瀬戸陶器学校開校
1896	明治29年	8月1日 瀬戸銀行設立(大正7年明治銀行と合併昭和11年閉鎖) 9月・10月・11月 上品野で伝染病発生 村費500円支出 上半田川学校、白岩学校廃止 上品野学校にて授業
1897	明治30年	中品野学校を上品野学校と下品野学校に分離 上品野学校 稻荷神社境内に役場と共に新築 上品野馬頭観音 (中品野歩道橋を北に80m程) 写真左 掛川尋常小学校下半田川分教場を廃止 《資料編参照:50頁》
1898	明治31年	10月 名古屋電話局を創設し明治33年3月には名古屋・桑名間、四日市間に電話開通 中品野歩道橋南 馬頭観音
1899	明治32年	3月16日法律第65号 郡を地方自治体と定め、郡会の組織と郡会議員選挙・選挙資格(直接国税3円以上納付者) 参考:明治23年5月17日法律第36号の改正(郡会設置・選挙制)
1900	明治33年	3月 法律改正が行われ、直接国税10円以上納付する者に衆議院議員選挙権が与えられ、有権者は2,245人 5月 征清凱旋記念碑 下品野村神明社境内に建立 7月25日 中央鉄道線の名古屋多治見間が開通 瀬戸自動鉄道(準)は大曾根を起点に瀬戸町に達する10マイル6チェン間に「セルボレー」式蒸気鉄道の敷設を出願 明治34年認可 下品野で「丸鎌」長江鎌太郎 陶磁器問屋創業
1901	明治34年	瀬戸陶器学校が瀬戸町立瀬戸陶器学校となる
1902	明治35年	1月30日 日英同盟 3月 瀬戸自動鉄道株式会社の創立総会を開催 資本金は23万円 6月 下品野尋常小学校新校舎で移転(字植田 6丁目信号北東地域) 9月10日 瀬戸ではじめて電燈が灯った 下品野で「丸力」下方兼四郎 陶磁器問屋創業 瀬戸陶器学校で燃費効率の良い石炭窯が開発され最初の窯を設置 中央鉄道線の名古屋中津(明治44年中津川に改称)間が開通 白岩八王子神社 馬頭観音(写真21頁 ③)

学校名は東春日井郡上品野尋常小学校
(上品野・白岩・片草・上半田川4ヶ村組合立)
東春日井郡下品野尋常小学校に改称



上品野馬頭観音(一面二臂・立像)
右 1913(大正2年):30頁に記載あり
左 1897(明治30年)『鈴木増太郎』



馬頭観音(一面二臂・立像)
右『岩屋堂 村中安全』
左『柿野道』

直接選挙による瀬戸地区縣會議員当選者



日英同盟
1902・明治35年1月30日～
1923・大正10年8月17日



征清凱旋記念碑
下品野村神明社



白岩八王子神社参道踊り場
馬頭観音③

馬頭観音舟形高48cm 一面二臂立像 右『明治35年』左『8月16日』

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1903	明治36年	12月5日 品野村に下品野巡查駐在所・上品野巡查駐在所・沓掛巡查駐在所を設置	  加藤新右衛門胸像 setopedia
1904	明治37年	2月6日 日露戦争開戦 3月6日 第3師団は第2軍に編入され 遼東半島に上陸、金州・遼陽・奉天等に参戦  日露戦争 1904・明治37年2月6日～ 1905・明治38年9月5日	
1905	明治38年	4月 瀬戸自動鉄道 瀬戸駅～矢田駅間で開業 紺屋田町・東印所町の斜面にホフマン工事(ハゲ山復旧工事)施工 9月5日 対露講和条約(ポーツマス条約)調印 日露戦争終結 下品野で11代加藤新右衛門 石炭窯にて磁器焼成 この頃の登り窯の燃料はナルと松割木に限られ山々は全て禿山だった 石炭窯の実用期は明治40年以降でそれ以前は煙突の1本も見られなかった	
1906	明治39年	1月 瀬戸線のセルボレー式蒸気鉄道の調子悪く電気動力に変更 認可 6月 町立瀬戸裁縫女学校(現在の瀬戸高等学校)開校 7月16日 下品野村、上品野村、掛川村、合併して品野村に 役場位置 品野村大字下品野字植田396番地 白岩八王子神社参道踊り場 馬頭観音(21頁・写真②) 小学校令改正 尋常科6年義務・高等科2～3年	 加藤新右衛門胸像(岩屋町・岩屋堂公園)  馬頭観音 白岩八王子神社参道踊り場 舟形高48cm一面四臂立像 持物宝珠 右『明治39年3月22日』
1907	明治40年	1月 瀬戸自動鉄道株式会社を瀬戸電気鉄道株式会社に改称し 名古屋電燈株式会社と動力供給の契約を行う 3月 瀬戸電気鉄道の運転を開始 3月15日 町村合併により品野村立品野尋常小学校に改称 4月6日 今井鎌三郎校長脳溢血で倒れ死亡 5月26日 上品野で創陶碑が建立され除幕式挙行 《資料編参照:51頁》 10月 戦役記念碑が沓掛に建立 11月8日 品野村立品野尋常小学校に戦利品が下付される 11月10日 名古屋警察署瀬戸分署を瀬戸警察署と改め、管轄区域は瀬戸町、品野村、赤津村、水野村、志段味村、旭村、愛知郡幡山村、長久手村 上品野尋常高等小学校 現在の児童公園に新築移転 中品野組屋組合この頃開窯 《資料編参照:51頁》	



上品野尋常高等小学校
写真の地には明治40年に移転した
昭和50年4月広之田町に上品野小学校から品野台小学校
と校名を変更して移るまでの68年間この地に在った
ここは現在、上品野児童公園となっている
着物姿の児童と平屋の校舎が写る
(昭和4年 上品野町・品野台小学校史料)



上品野 創陶碑

1908	明治41年	岐阜県多治見方面との道路を開設するのに品野村の一部坂路が峻険であり品野村の江尻玉五郎が発起人となり、愛知県の許可を得て岐阜県多治見方面と共通経済として村費で道路工事を起工し延長1568間を竣工せり翌同43年完成し、而して大正9年4月1日県道に編入せられたり《東春郡誌》 2月8日 瀬戸電気鉄道は名古屋市内乗入線を企画し森下、清水町、土居下町、南外堀町に達する鉄道敷設を出願 4月1日 伊藤源三郎 第3代校長を奉職 4月1日 品野村立品野尋常高等小学校(高等科併設) 7月に品野村立品野実業補習学校を併設 4月 東春日井郡は道路改良の為、郡土木費支弁規定を設定 郡内主要路線24線を修築維持するため明治41～45年度の5ヶ年計画を立てその費用79,907円31銭3厘を議決し事業に着手 品野村の工事は延長1,568間を竣工し、郡経営に移して明治43年完成 名古屋警察署瀬戸分署から瀬戸警察署となる	 瀬戸警察署
1909	明治42年	瀬戸局 電話の通話事務開始 4月 品野村に品野山林駐在所を設置 位置は大字下品野 12月17日 品野村の新遊園を岩屋堂の滝を中心に梅桜数千株を植え瀬戸より下品野へ通ずる乗合馬車を設備せんと出願	
1910	明治43年	3月18日 嶋田稻荷現在地に社地を移動 初代城嶺橋(しろがねばし・庄内川・定光寺町～春日井玉野町に架橋)完成 10月 瀬戸電気鉄道、名古屋市内乗入線の工事に着手 11月17日 皇太子(大正天皇)、萩の茶屋(砂防工事見学)、瀬戸町立瀬戸陶器学校に行啓 12月 下品野小学校初代校長 今井鎌三郎之碑 岩屋堂公園に建立 下品野「陶祖碑」金毘羅山に建立(そのご神明社に移転) 《資料編参照:51頁》	 城嶺橋
1911	明治44年	5月1日 中央鉄道線が全線開通 城嶺橋について 木造で架けられた初代城嶺橋は、明治44年8月に洪水により流失 明治45年に吊り橋に架け替えられ 大正13年1月定光寺駅が出来、景勝地玉野川溪谷に観光客増加 昭和12年コンクリート製三連アーチ橋に架け替えられ現在に至る 瀬戸町立瀬戸陶器学校を愛知県陶器学校と改称	



森橋～品野間の乗合馬車(明治終わりごろ)



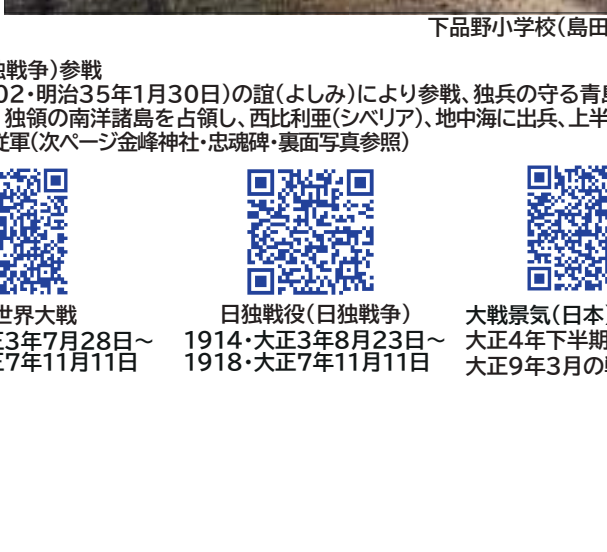
伊藤源三郎 第3代校長石碑



嶋田稻荷神社(品野町4丁目)



左側、現在の三連アーチ橋工事中、右側二代目の吊り橋の城嶺橋(定光寺町)

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1912	明治45年	4月 2代目城嶺橋完成 4月 掛川尋常高等小学校 建替え新校舎完成 4月 瀬戸電気鉄道 大曾根変電所を新設 5月 瀬戸電気鉄道 資本を100万円に増加 5月 日清日露戦役記念碑 上品野稲荷神社境内に建立 7月29日 明治天皇崩御	 掛川尋常高等小学校
	大正元年	9月22日 大暴風(台風) 9月 颱風により参道の倒木多し 《定》日清日露戦役記念碑(上品野稲荷神社境内)	大暴風「午後3時より強雨を降らし、同11時より強風となり、翌23日午前1時より、東の烈風となり、同2時より午後5時まで東南の台風と変じ、その後風向き南及び南西に廻り風力減ず」「倒壊家屋1,062棟、半壊819棟、大破1,196棟、死者25人………」《東春郡誌》 山の上に建設されたばかりの掛川尋常高等小学校は、大正元年9月21日の台風で校舎が倒壊し、急きょ山の下に新校舎を建てた
1913	大正2年	4月1日 掛川尋常高等小学校に改称 瀬戸電気鉄道・市内乗入線を複線に変更 上品野馬頭観音 (27頁・1897明治30年写真の右) 10月10日 下品野尋常高等小学校 植田から島田へ移転	 下品野小学校(島田)
1914	大正3年	7月28日 第一次世界大戦勃発 8月 日露戦役記念碑 が中品野岩屋堂に建立される 8月23日 日独戦役(日独戦争)開戦	 日露戦役記念碑 中品野岩屋堂(岩屋町)
1915	大正4年	1月 瀬戸電気鉄道 名古屋市内乗入線の全線 の運輸を開始 10月30日 日露戦役忠魂碑 下品野神明社境内に建立 下半期から大戦景気(日本)大正バブル はじまる	 日独戦役(日独戦争)参戦 日英同盟(1902・明治35年1月30日)の誼(よしみ)により参戦、独兵の守る青島を攻撃し一挙に開城せしめ、独領の南洋諸島を占領し、西比利亜(シベリア)、地中海に出兵、上半田川村から5名が日独戦役に従軍(次ページ金峰神社・忠魂碑・裏面写真参照)  第一次世界大戦 1914・大正3年7月28日～ 1918・大正7年11月11日  日独戦役(日独戦争) 1914・大正3年8月23日～ 1918・大正7年11月11日  大戦景気(日本)大正バブル 大正4年下半期から 大正9年3月の戦後恐慌で終焉

1916 大正5年

10月 品野信用購買組合設立

1917~8 大正6
~7年

上半田川でチフスが発生
15人が罹患し2人が死亡
津島神社のお天王さんを勧請し
六つのシマ全てに祀られた

1918 大正7年

8月12日 米騒動が瀬戸町でも発生
11月11日 第一次世界大戦終戦

1919 大正8年

3月 表忠碑が白岩八王子社境内に建立
日清日露戦役従軍者顕彰

1920 大正9年

5丁目観音堂馬頭観音
馬頭観音三面八臂座像
「村中安全下中品野馬車組合」

3月 戦後恐慌
大戦景気(大正バブル)終焉
(大正4年下半期からはじまって)
愛知県陶器学校を愛知県立窯業学校と改称



表忠碑 白岩八王子境内(白岩町)



村中安全下中品野馬車組合

1921 大正10年

東京大学愛知演習林(現東京大学演習林生態水文学研究所)設置

1922 大正11年

3月18日 陶祖之碑 上半田川金峰神社境内に建立
4月 戦役記念忠魂碑(日清日露日独戦役)
上半田川金峰神社境内に建立
愛知県立窯業学校を愛知県窯業高校と改称



戦後恐慌
大正9年3月

1923 大正12年

3月 愛知県瀬戸専修女学校(現在の瀬戸高等学校)と改称
4月30日 伊藤源三郎校長(3代目)退職
7月17日 東春日井郡誌 発行
9月1日 関東大震災
10月 下品野の秋祭り関東大震災のため飾り馬の奉納は中止された
12月13日 尾三銀行休業の金融不況の中、戸田兼助外12名信用組合設立
12月18日 品野信用組合事業を開始

《東春郡誌》



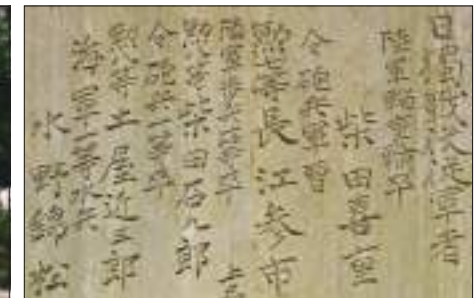
シベリア出兵(ロシア革命干渉)
1918・大正7年8月~
1922・大正11年10月



ポーランド孤児救済(シベリア孤児)
1920・大正9年7月~
1922・大正11年8月まで
8回、765名救出



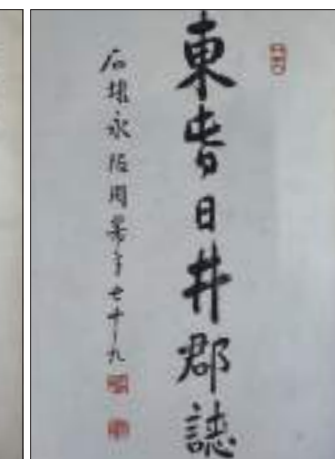
金峰神社忠魂碑(上半田川町)



左記忠魂碑の裏面
「日獨戦役従軍者」記名箇所抜粋



馬元憶え帳「大正12年度 大震災に付 馬八やすミ」他 《柴畑島(品野町5丁目)古文書》



『東春日井郡誌』
大正12年7月17日発行
郷土品野地区の歴史作成
の切っ掛けとなった

西 暦 元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1924 大正13年	1月1日 品野村、町制施行(大正14年世帯数1,408 人口6,923人) 3月 愛知県瀬戸専修女学校を 瀬戸町立愛知県瀬戸高等女学校(現在の瀬戸高等学校)に改名	 
1925 大正14年	3月14日 町政施行により品野町立尋常小学校に改称 5月10日 品野町立幼稚園開園 7月15日 名古屋放送局ラジオ放送開始 8月 未曾有の集中豪雨で瀬戸川にかかる木橋は全て流された 上品野菩提寺の恵比寿社の堂宇出雲から勧進 赤津村、瀬戸町(昭和4年、瀬戸市に)に合併	定光寺本堂 大正15年の台風のために屋根が吹き飛ばされてしま、仮屋根をつけているという貴重な写真である 広報せと平成18年2月15日号 「瀬戸の文化財第2回」より
1926 大正15年	4月 定光寺本堂国宝に指定される 11月1日 品野町立尋常高等小学校校舎新築工事始まる 12月25日 大正天皇崩御	定光寺は建武3年(1336)に平心処斎によって開かれた禅宗寺院です その後火災や地震等の災害があったため、創建当初の建物は残されていません 現在の本堂も天文元年(1532)の炎上後、同三年に再建されたもので、定光寺に残る一番古い 建物になります、本堂は桁行(けたゆき)五間、梁間(はりま)五間の正方形で、裳階(もこし)が ついているため、二階建てのように見えますが、実際は一階建ての建物です 昭和12年(1937)の解体修理の際に、屋根の形を変更し、現在の禅宗様の入母屋造りに復元 しました、屋根は厚さ3ミリの薄い板を重ねて葺く柿(こけら)葺きです 組物や棧唐戸(さんからど)、本尊が納められている厨子などに典型的な室町時代中期の禅宗 様式がみられます
1927 昭和2年	3月 昭和金融恐慌発生(この後、銀行休業続出) 4月 瀬戸陶工連盟、瀬戸硝子工組合、下品野、 上品野陶工組合は東春連合会を組織し 日本窯業労働総同盟に加入 4月 電気上絵付窯始まる 8月17日 小幡知事品野尋常高等小学校来校記念樹植栽	 
1928 昭和3年	10月20日 品野町役場新築 上半田川「開祖之碑」金峰神社境内に建立	《資料編参照：51 頁》
1929 昭和4年	4月 瀬戸町立愛知県瀬戸高等女学校を 愛知県立瀬戸高等女学校(現在の瀬戸高等学校)に改称 8月 上品野地区開発の碑建立《歩》 10月1日 瀬戸町市政を施行(県下5番目人口36,932人、戸数8,006戸) 10月24日 ニューヨーク株式市場大暴落(世界大恐慌始まる) 11月5日 第1回瀬戸市会議員選挙(議員定数30名) 11月15日 ラジオの全国中継開始 上品野寂場山菩提寺 火災で本堂・観音坊・行基作と伝わる千手 観音他を焼失	昭和2年完成の品野町役場のち品野支所 昭和49年完成の公民館併設品野支所 左の写真の建物は、品野地区がまだ町制を敷いてたころの町役場で、昭和2年に完成したもので、門柱に記された文字に時代が感じられます、洋風、木造2階建てで両袖が出て、上から見ると「コ」の字になっているこの建築様式は、他に水野村や幡山村の役場でも見られた 昭和34年、品野町は瀬戸市と合併し、役場は「瀬戸市役所品野支所」となった そして昭和49年、公民館を併設した建物に変わり、その建物も平成31年4月1日取壊され、現在の地域交流センター「ふれあい」と併設新築となった



昭和金融恐慌

1930	昭和5年	世界恐慌日本にも波及、米価農作物大暴落、農村の危機深刻化、 労働争議続出 瀬戸・品野も休業、半休業工場が大半となり恐慌状態となる 昭和恐慌 11月12日 品野陶磁器工業組合設立 12月20日 本邦初の省営バス 岡崎～多治見間・ 記念橋～高蔵寺間営業開始 バス7両、トラック10台で運行 瀬戸記念橋駅・品野駅等駅舎開設	 昭和恐慌 昭和5年～昭和6年	 瀬戸記念橋駅に停車する省営バス (1931・昭和6年頃)
1931	昭和6年	2月 瀬戸製陶労働組合結成 3月31日 瀬戸市立窯業試験所開設 9月18日 満州事変	 満州事変 1931・昭和6年9月18日～ 1933・昭和7年2月18日	
1932	昭和7年	9月16日 第1回せともの祭 12月28日 瀬戸陶磁器商業組合設立		
1933	昭和8年	品野祇園祭の山車人形の神武天皇は型徳の主人が石膏で作ったもので、 以前の人形浄瑠璃の人形は塚田氏から寄贈された《 下品野自治会議事録 》 12月16日 瀬戸市に上水道竣工(馬ヶ城浄水場 通水式)		
1934	昭和9年	5月11日 瀬戸少年院開設		
1935	昭和10年	窯の煙が瀬戸の繁栄を示している 中品野「陶祖碑」品野8丁目秋葉山中腹に建立		《資料編参照:51頁》
1936	昭和11年	6月16日 馬ヶ城浄水場第二期工事完了 10月3日 赤津水源地破壊、十数戸に浸水 11月2日 組合立陶生病院開院	 馬ヶ城の水	
1937	昭和12年	7月7日 支那事変 8月25日 定光寺源敬公廟、国指定の文化財となる	 支那事変 1937・昭和12年7月7日～ 1945・昭和20年8月15日	 定光寺源敬公廟
1938	昭和13年	4月1日 国家総動員法公布		

西 暦 元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1939 昭和14年	9月1日 瀬戸電気鉄道の名鉄が合併 品野の水野川でオオサンショウウオを捕獲 尋常高等小学校の子等が捕獲し、 理科室の外でタライに入れ皆で見た(水野末松さん談)	 初代神武天皇と従者の拡大  品野祇園祭 昭和15年・紀元2600年
1940 昭和15年	4月22日 米など10品目の切符制決定 11月10日 紀元2600年式典挙行 6月21日 陶栄町路上で省営バス炎上、死者11名 下品野 陶祖社(落合町)「本殿・拝殿」建設 明治43年金毘羅山に建立の「陶祖碑」を移設 《資料編参照:51頁》	 窯町東山開拓碑  品野口・馬場付近(昭和16年) 当時は瀬戸の市街地から一歩外へ出ると、このような光景を目にすることができた この付近は瀬戸・品野の境界で、道路沿いには人家や工場も見られた 市道紺屋田品野線
1941 昭和16年	1月1日 「瀬戸ところどころ今昔物語」刊行 3月1日 国民学校令交付 下品野国民学校、上品野国民学校、掛川国民学校に改称 12月8日 真珠湾攻撃(太平洋戦争)始まる	 新築落成した品野陶磁器工業組合 (昭和17年2月) 品野町の窯業も、 統合・整備されていった
1942 昭和17年	2月 品野陶磁器工業組合新築落成 品野陶土(株)設立 この年、企業整備断行される 6月1日 大政翼賛選挙として市町会議員選挙実施 9月1日 新愛知・名古屋、両新聞が合併して中部日本新聞を創刊 11月11日 瀬戸信用組合設立(昭和26年10月瀬戸信用金庫と改組)	
1943 昭和18年	2月28日 深川神社前でサーカス小屋から出火、死者13名負傷者多数 10月21日 学徒出陣 12月3日 東山開拓着工(昭和35年5月8日完成 窯町東山開拓碑)	
1944 昭和19年	5月10日 幡山の本地に空襲 焼夷弾にて住宅消失 12月7日 昭和東南海地震 M7.9	

1945 昭和20年

1月13日 三河地震 M6.8
 3月12日 新開地、京町に空襲 全焼22戸、半焼5戸の被害
 7月16日 品野祇園祭中止
 8月15日 第2次世界大戦 日本無条件降伏
 9月2日 東京湾上のアメリカ戦艦ミズリー甲板上で日本降伏文書調印
 ポツダム宣言受諾
 10月 余床八剣社の献馬行事
 12月17日 婦人参政権認められる



三河地震



日本の降伏文書

1946 昭和21年

4月1日 教育基本法学校教育法実施 六・三制新制度実施
 4月10日 戦後初の衆議院議員選挙 早稲田柳右衛門当選
 7月16日 品野祇園祭前年に続き中止
 8月 下品野に赤痢流行
 下品野小学校校舎1棟病舎となり出席停止(8月23日～9月10日)
 10月22日 天皇陛下来瀬 窯業高校、工業組合等をご視察
 11月3日 日本国憲法公布
 東山(三国山)開拓始まる「上品野地区開発の碑」
 12月21日 昭和南海地震 M8.0



昭和南海地震

1947 昭和22年

4月1日 教育基本法・学校教育法実施
 新学区制により品野町立下品野小学校、上品野小学校、掛川小学校と改称
 品野中学校開校 校舎・運動場とも下小から借用
 4月30日 戦後初の県議会・市町議会議員選挙



愛知県陶磁器工業協同組合屋上から幸町方面をご視察される天皇陛下
 昭和21年、昭和天皇が愛知県下をご視察され、瀬戸市では、加藤章市長の
 説明で愛知県陶磁器工業協同組合の屋上から市街地をご視察された。

南海トラフ地震の平均発生間隔は約88.2年と算出されており、
 この領域で起こった最後の大地震が
1944年の昭和東南海地震と
1946年の昭和南海地震で、すでに80年近い歳月が経過している
 「過去地震最大」級の地震が発生した場合、岡崎・西尾・田原市などで
最大地震M・7、名古屋市を含めた県西部や知多・渥美半島などの広範囲で
震度はM・6強以上になるとされている (愛知県防災会議地震部会、2014年)
 また、同時に濃尾平野や沿岸部では、液状化による被害も想定されている
 なお、愛知県域では、
濃尾地震(1891年10月28日・M8.0)や
三河地震(1945年1月13日・M6.8)など直下型地震も発生しており、
 2タイプの地震に対する備えが必要になっている

西 暦 元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1948 昭和23年	1月5日 名鉄電車瀬戸線大森で脱線 死者36名、重軽傷者135名 3月7日 自治体警察として品野町警察署発足 4月1日 愛知県立瀬戸高等女学校を愛知県立瀬戸高等学校と改称 愛知県窯業校を愛知県立瀬戸窯業高等学校と改称 8月5日 東春日井郡旭村に町制施行 品野陶磁器工業組合設立 品野農業協同組合設立 品野信用組合設立(大正12年設立)	旧品野中学校空撮 昭和24年に校舎と講堂が完成した後、校門、バックネットと整備が進められた。写真左の講堂前にある築山は同30年に完成した。 (品野町6丁目 昭和30年・提供品野中学校) 移転後の現在の品野中学校 昭和46年2月、竣工式が行われた。広大な運動場にはテニスコートやバスケットコートが何面も備えられている。校舎右手の体育館は同年12月に完成した。 (広之田町 昭和46年・提供品野中学校)
1949 昭和24年	1月5日 品野中学校完成 下品野保育園開所	昭和26年 品中茶摘み 品野中学校 お茶摘み (写真は昭和59年) 《50年品中》
1950 昭和25年	4月15日 公職選挙法公布 10月 瀬戸陶磁器工業協同連合会結成	
1951 昭和26年	4月10日 品野中学校で茶園栽培が始まる 5月3日 水野村、瀬戸市と合併 8月 瀬戸市消防本部設置 9月8日 サンフランシスコ平和条約に調印 八床町営住宅建設	合併時の水野村(人口9,109人、戸数1,250戸)
1952 昭和27年	5月 伊藤源三郎先生之碑建立(教えを受けた方々一同による)《参照:29頁》 町立品野保育園新築	

1953 昭和28年

2月1日 NHKテレビ本放送開始
品野町広之田町営住宅完成
4月28日 上品野地区で大火 全焼13軒半焼4軒
町村合併促進法が施行
奥山開拓に長野県から入植
品野各地に国鉄バスが通る



上品野地区開発之碑（奥山）



大火災の消火にあたる消防団
昭和28年4月28日、上品野の民家から
出火した火災は、13戸を全焼、4戸を半焼
する大火となりました

1954 昭和29年

2月8日 瀬戸市 品野町に合併を申入れ 《資料編参照:51頁～55頁》
3月1日 ビキニ水爆実験 第5福竜丸被災
5月5日 国務・法務大臣加藤隼五郎先生就任記念碑余床町八劔神社境内
6月16日 瀬戸公園橋から尾張瀬戸駅前の瀬戸大橋までの瀬戸川両岸で
一方通行実施
7月1日 品野町・瀬戸市 自治警を廃し、国家地方警察として再出発
西印所の陶土採掘鉱山で映画「青銅の基督」のロケ

1955 昭和30年

2月1日 幡山村、瀬戸市に合併
4月 戸田兼助翁徳碑 岩屋堂公園に建立
4月29日 御料林松下記念碑建立 上半田川金峰境内神社
8月 瀬戸交通安全協会 紺屋田町に自動車練習所を設立

1956 昭和31年

7月10日 品野中学校二階建て6教室校舎竣工
瀬戸多治見線・瀬戸拳母線が国道になる
8月30日 品野町 全町を対象に合併に関する世論調査を実施
12月18日 日本の国連加盟可決



西 暦 元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1957 昭和32年	下半田川町の共有地に砕石工業所を誘致 株式会社小西砕石工業所 1月29日 南極観測隊オングル島に上陸 昭和基地開設 5月20日 白マスク強盗事件(瀬戸市今池町他)翌年10月2日までの 約1年半の間に8件発生 8月3日 愛岐有料道路開通 8月8日 集中豪雨で大被害 岩屋堂・上品野 16戸流失、8人死亡、泉町で22人死亡 同 被害① 同 被害② ①岩屋堂では、天然プール流失・②大水害で崩壊した県道上品野金地 岩屋堂縄文遺跡 豪雨被害の護岸処置で発見 岩屋堂バス停付近の丘陵斜面から押型縄文土器の細片27点と石鏃5点 が出土し、瀬戸市内の縄文最古の遺跡の一つであると言われる	①岩屋堂水害当日 天然プール流失《水文学》 ②上品野町金地の県道
1958 昭和33年	昭和30年代(1955-64)再び蘇った窯の火 12月 瀬戸市と品野町との合併条件協定	
1959 昭和34年	1月16日 下半田川の木造阿弥陀如来像・木造十一面観音菩薩立像県文 化財に指定 4月1日 東春日井郡品野町が瀬戸市と合併 品野町役場が品野支所になる 合併時の品野町の人口9,313人、戸数1,809戸 7月12日 岩屋堂に人工プール開設 9月26日 伊勢湾台風 (翌日、品野からバスで名古屋に行く道中、倒れていた木製電柱の数を 数えたら100本以上だったとの目撃談:品野町7丁目水野氏) 伊勢湾台風により、 方丈(住職の居室)倒壊の他、概ね被害を受け、修理を施す 名鉄バスが品野に乗り入れる	再び蘇った窯の火 戦後の瀬戸の復興は早く、 直接の戦禍を免れた瀬戸市は、 物不足が進む中、生活用食器 などの需要が増大、また、 洋食器やノバルティなどの 輸出品の生産にも取りかかり、 瀬戸の窯の火は再び燃え盛 りました
1960 昭和35年	掛川小学校「つん張り校舎」と呼ばれた校舎から全面改築完了 9月10日 カラーテレビ本放送開始	掛川小学校校舎全景 「つん張り校舎」と 渾名(あだな)された 以前の校舎から、 昭和35年に全面改築 がなった中央部二階建 ての木造校舎全景 写真右上の平らな場所は、 建設途中に被災し失われ た幻の校舎跡で 「上の運動場」と呼ばれ ていた 写真の年から校舎下側(南)が整備され翌年に 南運動場が完成、「上の運動場」は、お役御免 となる (昭和44年・定光寺町)
1961 昭和36年	上品野の菩提寺本堂が再建された(写真:3頁) この頃石炭窯から石油窯へ変わる	1958年この頃を最後に 「おまん」と(秋祭りの飾り馬奉納) がなくなった

1963	昭和38年	2月22日 瀬戸で初めてシャトルキルン設置 陶磁器製品を乗せた台車を窯内に収納したまま焼成する炉 5月12日 聖カピタニオ高等学校開校(高根町)
1964	昭和39年	名古屋学院大学 上品野に開校 教養部移転(43年4月に全学移転) 4月4日 瀬戸自動車学校開校 4月11日 定光寺遊園地開園 6月20日 瀬戸准看護学校校舎完成 7月11日 養護老人ホーム陶寿荘認可 10月1日 東海道新幹線開業 10月10日 1964年東京オリンピック開催(第18回) 1964年東京オリンピック
1965	昭和40年	2月24日 東大演習林事務所新築移転(五位塚町) 4月16日 品野町時代の大字を廃し新町名を設定 6月14日 下品野連区自治会が品野祇園祭を主催することを決定 7月1日 下品野地区のお天王さん(津島神社)を4丁目の津島神社に合祀 7月1日 名神高速道路全線開通 7月16日 この年から自治会主催で品野祇園祭を開催 品野祇園祭の祭事費用を連区自治会全戸から50円徴収
1966	昭和41年	3月31日 日本の人口1億人を超える 5月2日 品野電話交換局新築 市内局番41
1967	昭和42年	4月1日 名古屋学院大学瀬戸学舎新築 7月25日 住民基本台帳法公布 菱野団地の造成始まる
1968	昭和43年	3月30日 皇太子ご夫妻陶房見学のため来瀬 8月1日 品野台カントリークラブ 開場 10月1日 郵便番号制実施 瀬戸局489 品野局480-12



東海道新幹線



名神高速道路



瀬戸自動車学校が開校
昭和39年4月、
自動車時代の
到来を反映して、
瀬戸自動車学校が
紺屋田町に開校



大学の学び舎が完成
昭和42年4月、上品野町に名古屋学院大学が移転し、校舎や体育館が完成



皇太子ご夫妻陶房見学のため来瀬
昭和43年3月30日加藤舜陶邸

西 暦 元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1969 昭和44年	4月4日 定光寺自然休養林開設 5月24日 市の木に「くろがねもち」選定 5月26日 東名高速道路全線開通 6月 白岩浄水場給水開始 6月8日 下品野小学校FBC (フラワーブラボーコンクール)で 夏花壇優良賞受賞 7月9日 市営上水道白岩浄水場完成 品野に初めて水道 8月 北山開拓之碑建立(北丘町) 10月10日 品野台カントリークラブオープン 12月4日 下品野小学校FBC (フラワーブラボーコンクール)で 秋花壇優良賞受賞  北山開拓之碑建立(北丘町)	 市の木「くろがねもち」 市制40周年に市民投票で決定  菩提寺本堂再建  上品野稲荷神社境内に 大東亜戦争戦死者慰霊碑建立  雇用促進住宅(品野町6丁目) (現:ビレッジハウス落合)
1970 昭和45年	3月27日 県営菱野団地 原山台で最初の入居が始まる 5月 県道沓掛・山脇線完成 6月17日 新図書館開館(東松山町) 8月10日 今井鎌三郎・伊藤源三郎校長施餓鬼を浄源寺にて執行(28名参加) 9月12日 下品野小学校「NHK全国学校音楽コンクール愛知県大会」優秀賞受賞 11月24日 市街化区域・市街化調整区域の区域区分を設定 12月28日 岩屋堂・定光寺、愛知高原国定公園に指定	
1971 昭和46年	2月1日 品野中学校校舎竣工式(航空写真36ページ) 8月 上品野稲荷神社境内に大東亜戦争戦死者慰霊碑建立	
1972 昭和47年	2月 落合に雇用促進住宅完成(現:ビレッジハウス落合) 4月1日 東海自然歩道 足助～定光寺間オープン 愛知県立旭野高等学校開校 4月24日 岩屋堂公園に観光道路竣工 4月29日 定光寺自然休養林に洋弓場オープン 5月15日 沖縄日本へ復帰 9月26日 瀬戸市人口10万人を超える  東海自然歩道	 東海自然歩道

1973	昭和48年	4月1日 品野信用組合、合併により中央相互銀行品野支店になる 5月28日 品野東公民館上品野に竣工 10月4日 下品野小学校新校舎竣工 11月11日 市民公園陸上競技場オープン 穴田企業団地への企業立地が開始
1974	昭和49年	2月18日 「瀬戸の陶磁器の生産用具および製品3943点」国の重要民俗資料に指定(3月4日焼失により「50. 9. 22付け一部解除および指定による員数変更」を受ける 4月1日 瀬戸窯業高等学校定時制から分離併置独立・瀬戸南高等学校開校 4月1日 瀬戸公園の六角陶碑(陶祖碑)市文化財に指定 4月1日 公立瀬戸旭准看護学院開校 (公立陶生病院准看護学院と愛知県医師会准看護婦学校と統合・平成17年3月31日閉校、平成5年4月1日公立瀬戸旭看護専門学校開校) 5月29日 品野支所庁舎・品野公民館(後下品野公民館)竣工 5月29日 蛇ヶ洞浄水場竣工 給水開始 12月3日 定光寺に県労働者研修センター竣工
1975	昭和50年	4月1日 上品野小学校、下品野小学校の学区だった中品野地区を学区に入れ品野台小学校と校名変更して広之田町へ新築移転 9月24日 平和之礎 支那事変及び大東亜戦争で国の為殉死された147柱の英霊の功績に感謝、顕彰するため建碑 品野神明社境内に建立 10月15日 瀬戸市歴史民俗資料館竣工 品野台小学校の児童崖崩れにあう



下品野小学校



瀬戸公園の六角陶碑(陶祖碑)



平和之礎・品野神明社境内(落合町)



公民館併設品野支所

西 暦 元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1976 昭和51年	2月16日 協同組合瀬戸陶磁器卸センター竣工(水野準工業団地内) 7月19日 集中豪雨で品野町1丁目床上浸水 10月12日 品野中学校PTA 優秀PTAで文部大臣賞を受賞	 企業団地（穴田町・暁町） 昭和 44 年から愛知県企業庁が造成を進めてきた「穴田企業団地」が、昭和 48 年から操業を始めた。さらに昭和 58 年から穴田企業団地の南に「暁工業団地」、平成元年からその西に「暁西工業団地」の造成が始められ、「三団地」で述べ約 75 ヘクタールの一大工業団地が完成しました
1977 昭和52年	3月31日 幡山・水野・品野の3農協 合併し「瀬戸市農業協同組合」 愛知県の人口600万人を突破 11月3日 下品野小学校 昭和52年度 健康優良校日本一受賞	
1978 昭和53年	3月19日 名鉄瀬戸線 4月1日 県立瀬戸西高等学校開校 6月1日 愛知県陶磁資料館開館 8月20日 名鉄瀬戸線 栄乗り入れ 12月9日 農道整備事業 広の田・曽野線開通	 栄乗り入れを祝う瀬戸電  品野南保育園(品野町3丁目)
1979 昭和54年	3月14日 電話の全国ダイヤル 自動化100%達成 3月26日 市民公園の 瀬戸市体育館完成 4月1日 品野南保育園開園 5月21日 市の花に「つばき」選定 7月 下品野小学校にプールが完成 10月1日 市制50周年 市民憲章制定 タイムカプセルの埋設・記念誌「瀬戸」刊行	
	 昭和52年度 健康優良校日本一 記念彫塑 & 「健」石  市の花「つばき」 市制50周年に市民投票で決定 瀬戸市民憲章 わたくしたち瀬戸市民は 1. 自然を大切にし、産業をのばし、 豊かなまちをつくりましょう。 1. きまりを守り、心のかようまちをつくりましょう。 1. 元気に働き、明るく幸せなまちをつくりましょう。 1. 若い力を育て、希望とやすらぎのあるまちをつくりましょう。 1. スポーツに親しみ、教養を高め、すぐれた文化のまちをつくりましょう。 昭和 54 年 10 月 1 日制定	

1980	昭和55年	4月13日 平和之礎が中品野町八劔社境内に建立 4月17日 セントレジャーゴルフクラブ定光寺オープン 現定光寺カントリークラブ
1982	昭和57年	3月20日 品野西保育園新園舎完成 7月 品野町1丁目(品野口)の津島神社に陶製の祠 奉納 10月4日 瀬戸市文化センター完成 10月10日 愛知県企業庁 暁工業団地の開発に着手
1983	昭和58年	4月1日 渋川小学校新築校舎で授業開始 4月1日 県立瀬戸北高等学校が開校 9月 平和之礎が下半田川八劔社境内に建立 支那事変・大東亜戦争殉死者名
1984	昭和59年	3月31日 県立瀬戸南高等学校廃校 (昭和49年・瀬戸窯業高校定時制課程から分離し、元に戻り平成9年 定時制の募集停止) 4月1日 愛知県立北高等学校開校 6月18日 尾張東地方卸売市場開場
1985	昭和60年	2月27日 片草町民会館完成 3月1日 「瀬戸市史、資料編、村絵図」刊行 3月9日 「定光寺誌 開創650年記念」発行 8月1日 定光寺野外活動センター開設
1986	昭和61年	3月25日 養護老人ホーム陶寿荘改築 4月1日 男女雇用機会均等法施行
1987	昭和62年	10月10日 愛知県企業庁 暁西部工業団地の開発に着手 平成2年完成



品野西保育園(品野町6丁目)



平和之礎
中品野町八劔社境内



瀬戸市定光寺野外活動センター(鹿乗町)



片草町民会館



老人ホーム陶寿荘(井山町)



平和之礎
下半田川八劔社境内

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
1988	昭和63年	1月31日 愛知環状鉄道開業 2月17日 瀬戸市クリーンセンター完成 3月30日 白岩町集会所完成 4月20日 下品野ふれあい会館完成 10月1日 市のシンボルマーク・ロゴタイプ選定	 
1989	昭和64年 平成元年	1月7日 昭和天皇崩御 1月7日 学校給食に陶器食器試行導入 1月8日 元号を平成と改元 2月1日 中央相互銀行、愛知銀行に銀行名を変更 3月29日 品野中学校柔剣道場完成 4月1日 消費税3%でスタート 4月26日 中小企業大学校瀬戸校開校 10月14日 消防署東分署完成 品野町1丁目 12月22日 北丘集会所(北丘みどり会館)完成 品野でたった一軒の銭湯「別府温泉」がなくなった	下品野ふれあい会館 平成 30 年祇園祭準備中の写真 白岩町集会所  
1990	平成2年	5月11日 尾張東部衛生組合晴丘センターの粗大ごみ処理施設稼働 6月20日 瀬戸大府線主要区間 原山町～幡野町開通 8月2日 品野中学校最後の茶摘み 11月26日 品野西遺跡を発掘調査	北丘みどり会館(北丘町) 消防署東分署(品野町1丁目)
1991	平成3年	7月1日 北スポーツ施設完成(八床町) 7月17日 品野陶土(株)より品野自治会へ神輿贈呈	 
1992	平成4年	4月1日 (財)瀬戸市文化振興財団設立「埋蔵文化財センター」 9月12日 学校週5日制スタート	品野陶土(株)より神輿贈呈式 北スポーツ施設 (八床町)

1993	平成5年	4月1日 公立瀬戸旭看護専門学校開校 4月21日 福祉保健センター「やすらぎ会館」オープン 11月15日 シルバー人材センター設立
1994	平成6年	2月 加藤唐三郎家・加藤新右衛門家の古文書を市指定文化財に指定 10月30日 わかしち国体開催瀬戸市でウェイトリフティング
1995	平成7年	1月17日(火)5時46分52秒 阪神・淡路大震災 3月19日 窯垣の小径資料館オープン
		 阪神・淡路大震災 wiki
1996	平成8年	8月9日 瀬戸市人口13万人突破 8月 O-157による食中毒多発 10月11日 景德鎮市と友好提携
1997	平成9年	1月17日 品野祇園祭協賛会設立 2月14日 「窯屋証文」「陶製梵鐘」「染付花唐草文大燈籠」「古窯」を市指定文化財に指定 4月1日 消費税5%に引き上げ 5月14日 「瀬戸染付焼き」伝統工芸品に指定 スパ- (SPAR)品野1丁目にオープン
1998	平成10年	4月20日 名誉市民に長江録彌氏（彫刻家 日本芸術院会員）
1999	平成11年	3月24日 品野台小学校、上品野町に移転し新校舎完成 5月28日 新世紀工芸館開館 11月12日 定光寺「祠堂帳」と「深川神社本殿」を市指定文化財に指定
2000	平成12年	9月11日 東海豪雨



瀬戸市埋蔵文化財センター



品野祇園祭協賛会設立(写真は、2019年)



仕切りがない教室で、給食をほおぼる子どもたち



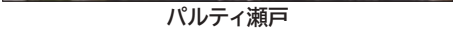
福祉保健センター「やすらぎ会館」



長江録彌氏の作品「乾漆作品の一」



市指定文化財に指定された「深川神社本殿」

西 暦 元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
2002 平成14年	3月31日 北丘最終処分場完成	
2003 平成15年	全宝寺・祇園堂完成 神武天皇及び従者を安置 8月23日 瀬戸デジタルタワー開塔(幡中町)	 
2004 平成16年	瀬戸菱野トンネル開通 「笠原・両半田川国境争論絵図」と 天然記念物「マメナシ」を市文化財指定	
2005 平成17年	1月 桑下城址を発掘調査(2010年1月まで) 2月17日 中部国際空港開港 2月19日 パルティセと開館 3月19日 瀬戸蔵開館 東海環状自動車道開通 せと品野IC供用開始 3月25日 愛・地球博開幕(～9月25日) 4月1日 公立瀬戸旭准看護学院閉校	 
2006 平成18年	10月1日 品野郵便局無集配特定局化 12月23日 コミュニティバス運行開始	 
2007 平成19年	4月 名古屋学院大学が 名古屋市に主要学部を移転	 
2008 平成20年	1月30日 バロー品野店オープン 3月25日 レジ袋有料化開始	
2009 平成21年	3月20日 瀬戸万博記念公園 愛・パーク開園(上之山町) 5月 「せとちゃん」せと・まるっとミュージアムのイメージキャラクターとして承認 10月1日 JRバス瀬戸北線・瀬戸循環線の路線を最後に全廃となり代替の 市内基幹バス路線を名鉄バスが引継ぎ運行開始	



瀬戸市天然記念物指定木
「マメナシ」水南小学校
写真提供:上杉あずきさん



バロー品野店(品野町4丁目)

全宝寺祇園堂完成神武天皇と従者像を安置

瀬戸 菱野トンネル

瀬戸蔵

パルティ瀬戸

「愛・地球博」3月25日から9月25日
大観覧車からの万博会場眺望

東海環状自動車道せと品野IC

2010	平成22年	4月1日 瀬戸市立瀬戸養護学校さくらんぼ学園開校（萩山台2丁目）
2011	平成23年	3月11日(金)14時46分18.1秒 東日本大震災 (M)9.0の巨大地震で大きな揺れ、 大津波及び火災など被害甚大 3月19日 市内公共施設内での全面禁煙が始まる 3月25日 瀬戸品野西土地区画整理事業完工(18.9ヘクタール) 3月26日 「道の駅瀬戸しなの」開業(品野町1丁目) しなのバスセンター完成(品野町6丁目) 4月1日 愛知県立瀬戸北高等学校を愛知県立瀬戸北総合高等学校と改称 4月3日 品野台地域交流センター「ぬくも里」完成(上品野町) 8月 東日本大震災のため品野陶磁器センターの花火大会中止 10月1日・2日 「日本オオサンショウウオの会」瀬戸市大会開催
2012	平成24年	4月14日 第51回せと陶祖まつりにて「陶祖800年祭」開幕宣言 平成27年3月まで市内一円で開催 12月1日 尾張旭市と共同で消防指令センターの運用開始
2013	平成25年	3月18日 神武天皇及び従者像三体瀬戸市有形民俗文化財に指定 3月22日 「知の拠点あいち」に「あいちシンクロトン光センター」 の運用が開始 9月 品野つくし会が老朽化した「加藤新右衛門翁」産業功労標記看板を 再書き設置(29頁関連)
		 加藤新右衛門胸像 Setopedia
2014	平成26年	4月1日 消費税8%へ引き上げ 4月19-20日 「陶祖800年祭」のクライマックス「藤四郎フェスティバル」 6月20日 名古屋市と瀬戸市に跨る「志段味古墳群」が国の史跡に追加 9月28日 御嶽山噴火 10月1日 全国で初となる病児・病後児の一時預かりを専門に扱う 施設の運用が始まる(おひさま・公立陶生病院)



東日本大震災
wiki



道の駅「瀬戸しなの」(品野町1丁目)



しなのバスセンター(品野町6丁目)



品野台地域交流センター「ぬくも里」
(上品野町)



神武天皇他有形民俗文化財指定
全宝寺・祇園堂(品野町2丁目)



「陶祖 800 年祭」マスコットキャラクター



堤洞防災広場(品野町3丁目)

西 暦	元 号	郷土品野地区の歴史	史料・参考資料・解説 他
2015	平成27年	2月16日 市役所新庁舎が完成 8月28日 堤洞防災広場完成 11月7日 岩屋堂紅葉まつりにシャトルバス運行開始	  品野支所・下品野地域交流センター(品野町6丁目) 東山三集会所・二又池防災広場(窯町)
2016	平成28年	愛知銀行品野支店閉店	
2017	平成29年	藤井聡太 四段29連勝 3月31日 二又池防災広場完成 4月18日 「きっと恋する六古窯ー日本生まれ日本育ちのやさものの産地ー」の名称で日本遺産に瀬戸焼、広久手30号窯跡、瀬戸窯、深川神社、窯垣の小径、赤津焼などが登録された	
2018	平成30年	   日本遺産 名古屋城 名古屋城 本丸御殿完成  名古屋城本丸御殿(名古屋市中区本丸1番1号)	
2019	平成31年	4月1日 下品野地域交流センター「ふれあい」・品野支所完成	
	令和元年	4月30日 明仁天皇退位 上皇に 5月1日 令和に改元 8月 「下品野自治会館・ふれあい会館」廃止、取り壊し 10月1日 消費税10%へ引き上げ 10月 東山三集会所完成(窯町) 10月29日 文化庁「歴史の道百選」に信州飯田街道(品野地区)を選定	 中馬街道案内板 文化庁信州飯田街道を歴史の道百選に選定
2020	令和2年	 『旧角基前の道しるべ除幕式』(中馬街道案内石柱) (品野町5丁目) 文化庁「歴史の道百選」『信州飯田街道(中馬街道)』追加選定1周年記念・2020年10月24日	 祇園祭神事(コロナ禍の為、神事のみ実施)  『中馬街道』案内柱 神明社前国道沿い(品野町7丁目)

		4月 東京大学大学院農学生命科学研究科付属演習林から 「生態水文学研究所」に名称を改称(五位塚事務所) 4月16日 新型コロナウイルス感染症緊急非常事態宣言(5月25日解除) 7月 品野祇園祭神事以外中止 7月 東京オリンピック・パラリンピック1年延期(2021年7月23日開幕)	 	東大・生態水文学研究所に改称(五位塚町) 瀬戸工科高等学校に校名変更(東権現町)
2021	令和3年	4月 瀬戸窯業高等学校 瀬戸工科高等学校に校名変更 7月23日～8月8日 東京2020オリンピック競技大会(第32回) 8月24日～9月25日 東京2020パラリンピック競技大会(第16回) 9月 瀬戸市出身、名古屋学院大学の島健吾選手が東京パラリンピック 出場・4×100mユニバーサルリレー銅メダル		2020年東京オリンピック・パラリンピック
2022	令和4年	6月23日 下品野遺跡発掘見学会 7月24日 下品野遺跡発掘調査中間報告会 講師:愛知県埋蔵文化財センター 調査研究専門員 蔭山誠一氏		藤井聡太 日本将棋連盟 棋士データベース
2023	令和5年	5月8日 新型コロナウイルス感染症 5類へ移行 7月15日 品野祇園祭コロナ禍中止から復活 10月11日 藤井聡太王座を奪取し八冠に		藤井聡太 日本将棋連盟 棋士データベース
2024	令和6年	1月1日16時10分22.5秒 能登半島地震(M7.6最大震度7) 7月3日 新札発行(1万円:渋沢栄一、5千円:津田梅子、千円:北里柴三郎)		藤井聡太 日本将棋連盟 棋士データベース
		能登半島地震 wiki 日本銀行 特設サイト		
		愛知県の人口 令和元年 755.7万人(ピーク) 100% 令和7年1月1日 746.1万人 98.7% 瀬戸市の人口 平成22年4月1日 133,656人(ピーク) 100% 令和7年2月1日 126,119人 94.3%		
		祇園祭コロナ禍による中止から祭事復活 藤井聡太王座を奪取し八冠に	 	祇園祭コロナ禍による中止から祭事復活 藤井聡太王座を奪取し八冠に

18 頁

窯屋の『一子相続』と『永代ろくろ一挺の制度』

陶器伝来記

赤津村 下品野村 下半田川村 庄屋 組頭 窯屋

- 一、窯屋共ノ儀是まで窯職いたし来り候人数並に有り来り窯数の外此上相増候儀一切相成らず、窯株売買これまた相成らず候事
- 一、窯屋共の内、中絶罷り候者共、私に窯焼始め候儀相成らず節々願の上差図請くべき事
- 一、窯屋共その家倅、実子養子の差別なく一人に限り相続いたし別家一切相成らず候事

右の通り申付候間、違乱有之間敷き者也

天明四年辰八月

みぎ御勘定所よりの目紙写

24 頁

明治10年 後の日本赤十字の創立

西南戦争に際し、戦地の傷病者を彼我の区別なく、救護愛護するの目的を以て博愛社を創立。

征討総督府の充許を得て、實地に就き業務を行ひ、役るの後之を永設の一社となし、平時力めて諸般の準備を為し、一朝有事の時に方り救護の事に従ふを期す。

明治19年我政府ジュネーブ条約に加盟せられしを以て益々事業を拡張せんことを決し、明治20年社名を日本赤十字社と改称し、社則を更定し本社を東京に置き、各府県に支部を設け、各都市に委員部を置くこととなれり。

是に於いて本郡は、愛知支部東春日井郡委員部を設け事務所を郡役所に置き、事務を掌るに至れり。 《東春郡誌》

27 頁

明治30年 上品野馬頭観音

国道363号の中品野歩道橋を北に80m程行くと2体の馬頭観音が祀られています。

左側の馬頭観音は、舟形高56cm一面二臂立像です。

向かって右の舟形に「明治30年6月26日」左側には「明治30年3月27日」と刻まれています。

なぜ違う日付が刻まれているのでしょうか？

基壇には「上品野 鈴木増太郎」と建立者の名が刻まれています

右側の馬頭観音は舟形高55cmで一面二臂立像、向かって右側に「鈴木増太郎」、左側には「大正2年□□」(□□は不明の意)と刻まれています。

馬方鈴木増太郎さんが家族同様に思っていた相方の馬が明治30年3月27日、片草近辺で仕事に死亡。6月26日馬頭観音を現地に建立された。

毎年お参りされていたが、運送が荷馬車から自動車中心の時代に移行する中で自動車が通りやすい道路にするため路線が変更された。

こうして馬頭観音を移設することになり、2体の馬頭観音が並んで設置されました。

以前の場所へおばあさんがバスでお参りに行かれたとのお話で、品野から東濃の明智へ国鉄バスが通るようになった昭和28年以降に移設されたと思われます。

品野七城

《市史》

窯業・陶祖碑

城名	所在村	現所在地	城主	村絵図表記
品野城	上品野村	上品野町 稲荷神社南 秋葉山	松平内膳信定 家重 家次	桜井内膳居城
桑下城	上品野村	上品野町(桑下)	永井民部(少輔)	城根
山崎城	中品野村	品野町8丁目 山崎五輪山	竹村孫七郎 長七 (織田家臣)	
落合城	下品野村	落合町	戸田氏 長江氏 桜木氏	天白 (古城跡なし)
阿弥陀ヶ峯城	下品野村	品野町2丁目 (全宝寺境内)	永井(長江)民部 少輔利景	
片草城	片草村	片草町	坂井十朗	古城跡
奏川城	下半田川村	下半田川町	尾関弥右衛門	古城跡なし

上品野の開窯者 「磁器創業之碑」 上品野・稲荷神社境内 明治9年(1876)	24頁	長江松十・長江兵蔵・加藤文右衛門・長江惣七 明治40年(1907)建立 発願 明治5年(1872) 深見作介、長江惣吉 改良成功 4月 陶祖まつり・供養祭	23頁 28頁
上半田川の開窯者 「開祖之碑」 昭和3年(1928)建立 金峰神社境内	32頁	長江吉衛門 築窯 明治7年(1874)出願 長江惣左衛門の協力で成功	24頁
中品野の開窯者 「陶祖碑」 自然石 昭和10年(1935)建立 品野町八丁目秋葉山中腹	33頁	中品野組屋組合50名・有志3名 明治40年頃開窯 4月 藤四郎祭り	28頁
下品野の開窯者 明治43年(1910) 金比羅山に建立の 「陶祖碑」その後移転 下品野 陶祖社・落合町 (神明社境内内) 「本殿・拝殿」 昭和15年(1940)建立	29頁 34頁	加藤藤四郎景正を祀る 慶長年間(江戸時代)に 陶祖加藤新右衛門、三右衛門の兄弟が 尾張藩「竈屋呼び戻し」により開窯 毎年「4月の陶祖まつり」の日に祭りがある	14頁

品野陶磁器工業協同組合

昭和5年(1930)組合設立 初代組合長:戸田兼助

組合員数推移

昭和20年	37
昭和32年	178
昭和57年	226
令和2年	72
令和6年	65
戦後ピーク	
昭和54年	880

設立時組合員数	241
内訳 窯元	230
窯道具製造・石膏型屋	4
製土	7
戦前 昭和16年ピーク	259
戦時企業整備合同(昭和17年)	25

参考 昭和3年 地域別同業者数

瀬戸地域全体:1,000 品野地域:188 水野地域:57

33頁

瀬戸市と品野町との合併条件協定書

1958 年（昭和 33）12 月

「瀬戸市 品野町 合併条件協定書」

瀬戸市品野町合併条件協定基本事項

一、合併の形式	編入合併とする	五、職員の身分 取扱い	合併の際、現に在職する品野町の職員は 瀬戸市の職員として引続き勤務年数は通算する。 但し、現に在職する品野町の職員で、 愛知県町村吏員恩給組合、同互助会又は 愛知県市町村共済組合に加入していなかつ た期間のある職員の在職年数は この二分の一として通算する。
二、支所の設置 について	品野町役場に支所を置き、 次の事務を取扱う。 1, 戸籍、配給、住民登録に 関する事項 2, 諸証明、閲覧、埋火葬認可に 関する事項 3, 納税、税外収入に関する事項 4, 農林、観光に関する事項 5, その他住民の福祉に関する事項	六、税の賦課 について	昭和 34 年度より瀬戸市税条令を適用する。 但し、固定資産税は昭和 36 年度まで現在 の評価額によって賦課する。
三、財産、営造物並び に負債について	財産、営造物並びに負債は、 そのまま瀬戸市に引き継ぐ。 但し、下品野字八床地内町有山林 については、別に協定する。	七、各種委員会及委員 について	地区農業委員会並びに農業共済組合は、 存続する。
四、議員の選挙 について	合併後行われる最初の選挙に限り、 品野町を特別選挙区とし、 議員の定数は、 昭和 30 年の国勢調査の人口比例とする。 但し、端数は切り上げる。	八、消防団の組織編成 について	消防団は小学校連区をもって 分団単位とする。
		九、公民館、体育館の 建設について	現品野公民館を他に移転し、跡に、 鉄筋コンクリート建（おおむね 200 坪） 施設を昭和 36 年度までに建設する。 但し、位置については更に検討する。
		十、合併の時期	昭和 34 年 4 月 1 日

東春日井郡品野町と瀬戸市との合併への推移（２－１）

1954年 昭和29年

- 1月10日 瀬戸市議会 品野町合併調査委員会を設置
- 2月8日 瀬戸市 品野町に対し正式に合併を申入れ
- 2月～30年3月
瀬戸市議会
品野町合併調査委員会を6回開催

1955年 昭和30年

- 3月23日 瀬戸市 品野町合併委員会合同会議を開催
懇談会を実施
- 6月17日 瀬戸市議会
合併調査委員会を
品野町合併促進委員会と改称
第1回委員会を開催 正副議長を互選

1956年 昭和31年

- 1月23日 瀬戸市
品野町合併委員会合同会議を開催懇談会を実施

1956年 昭和31年

- 8月30日 品野町
全町を対象に合併に関する世論調査を実施
その結果
即時合併38.1% 時機を見て合併40.3%
合併反対21.5% 無効0.1%
- 8月31日 品野町議会副議長、助役
瀬戸市役所を訪問
住民投票の結果を報告
- 8月31日 瀬戸市議会品野町合併促進委員会を開催
対策を協議
- 9月28日 瀬戸市議会品野町合併促進委員会を開催
対策を協議

1957年 昭和32年

- 1月29日 南極観測隊オングル島上陸 昭和基地を開設
- 3月27日 品野町議会
定例会で瀬戸市との合併に関する原則を
申合わせ
- 3月28日 品野町長、議長
愛知県総務部長を訪問
瀬戸市との合併に関する原則の申し合わせ
について報告を実施
- 3月30日 愛知県知事より瀬戸市、品野町の合併勧告を受ける
- 4月1日 合併勧告書を受領
- 5月11日 瀬戸市報(全戸配布)に
品野町合併に関する記事を掲載市民に周知を図る

1958年 昭和33年

- 2月11日 品野町議員団及び三役、瀬戸市庁舎視察
のため訪問
瀬戸市議会と懇談会を実施
- 4月17日 愛知県地方課長瀬戸市を訪問 市長と会談
品野町合併の促進につき協議
- 6月24日 品野町長瀬戸市役所を訪問
- 6月29日 愛知県地方課長瀬戸市を訪問 市長と会談
品野町合併促進につき協議
- 7月5日～12月13日 品野町議会 合併委員会を設置、
瀬戸市との合同会議5回を含め
9回の検討会議を実施
- 7月9日 品野町正副議長 就任挨拶のため瀬戸市役所訪問
合併促進に付いて意見交換
- 8月14日 品野町議会全員協議会を開催
合併条件に付き研究討議
- 8月19日 品野町助役
瀬戸市を訪問 合併の事務手続きの打ち合わせ

東春日井郡品野町と瀬戸市との合併への推移（２－２）

1958年 昭和33年

8月21日～10月10日

品野町議会土木委・産業委・総務委を開催
合併条件に付いて研究討議9月20日 瀬戸市議会常任委員長会議を開催
のち品野町を訪問し懇談9月26日 瀬戸市議会 品野町議会議員を招聘
市役所で懇談会を開催

9月27日 品野町区長会議を開催 合併方針を説明

9月30日 瀬戸市議会定例会 品野町合併委員会を設置
8名の委員を決定10月3日 品野町議会全員協議会を開催
合併条件案を審議

10月6日～12月13日

瀬戸市議会品野合併委員会を開催
品野との合同会議5回を含め
11回の検討会議を開催10月22日 品野町助役 瀬戸市を訪問
人事、給与問題の打ち合わせ実施11月4日 品野町 地区団体代表者会議開催
合併方針を説明11月12日 瀬戸市役所で事務者間協議を開催
品野町の合併条件中の議員選挙の問題、
公民館建設の問題を残し概略を了承

11月14日～22日

品野町各部落・地域総会を開催
合併方針を説明11月17日 瀬戸市議会品野合併委を開催
企画課長より合併条件の事務者間協議を
報告を受け了承
議員選挙問題は人口割等の議員数、
公民館問題は
品野町の財政状況等事務的に更に研究11月18日 瀬戸市企画課長・財政係長
財政状況調査のため品野町を訪問11月19日 品野町役場で事務者間協議を開催
合併条件案を検討11月27日 瀬戸市・品野町合併委合同会議
を瀬戸市役所にて開催
公民館問題等で結論に達せず、
品野町側は翌日町議会
全員協議会で協議の上回答することで閉会11月28日 品野町議会全員協議会を開催
合併条件を協議翌29日 瀬戸市に電話で、結論に達せず、
12月2日部落代表懇談会を開き
結論を出す旨連絡

12月11日～12日

品野町部落懇談会を開催
合併方針を説明12月13日 瀬戸市・品野町合併委三会議を瀬戸市役所で開催
合併条件につき最終的結論に達し、
合併議決を12月中
に行なうことを決定12月17日 瀬戸市役所にて合併条件協定基本事項作成事務
打ち合わせ12月23日 瀬戸市議会臨時会を招集
品野町合併を議決同 品野町議会臨時会を招集、
瀬戸市に合併を議決

12月26日 市町廃置分合について愛知県知事に申請

1959年 昭和34年

4月1日 東春日井郡品野町が瀬戸市と合併
(合併時の人口9313人、戸数1809戸)

瀬戸市品野町合併条件協定付帯事項（２－１）

一、支所について

- 1 支所は特別の事情がない限り廃止しない。
- 2 支所に土地台帳、整理図、家屋台帳を置く
- 3 支所には支所で取扱う事務に支障のないため、概ね職員 12 名及び使丁 1 名を置く。

二、財産営造物等について

- 1 下品野字八床地内品野町有山林の管理処分については、管理委員会を置き、その決定に基づきこれを行う 47。
管理委員の選任については、品野町地内の住民の意思を尊重し、10 名を市長が委嘱する。
- 2 大字、部落有財産は、現在のままとする。

三、各種委員について

各種選任委員については、早期に品野町地区よりも選任するよう努力する。

四、消防施設について

- 1 品野支所内に消防担当の職員を置く。
- 2 防火貯水槽の早期整備を行い企画以下の貯水槽装置についても助成できるよう努力する。
- 3 新規購入ポンプは、全額市費を以て負担する。

五、委託児童について

下半田川及び沓掛の中学校生徒の委託については、引き続き委託を原則とする。

六、産業の振興について

- 1 産業振興に関する補助助成を行う。
- 2 開拓地の育成強化を図る。
- 3 品野川及び三国川より新たに他の地区に給引水しない。

七、観光開発について

- 1 観光事業を強化するため、瀬戸市役所の所属名の変更又は係を設置する。

八、民生委員について

民生委員の定数は現在人員を下らないようにする。

九、都計区域の編入について

品野町全域を都市計画区域に編入し、計画路線及び地域設定については地元の意向を十分考慮する。

十、施設等の整備について

次の事項については、合併後の建築計画を立てるとき財政的にも充分検討の上、総合的な見地から実施計画に入れるよう努力する。

- 1 土地改良事業の拡充強化
- 2 品野口東南方一帯への工場誘致
- 3 岩屋堂公園と三国山一帯及び定光寺応夢山一帯の観光開発整備
- 4 公営住宅を品野町地内に年々 30 戸程度建設
- 5 児童遊園地を数ヶ所設置
- 6 市営上水道（簡易水道を含む）並びに可能地域のガスの施設
- 7 品野中学校…耕地拡張整備 (2,300 坪)、校舎増改築 2 棟 (206 坪)、取壊し
新築 2 階建て 10 教室 294 坪、渡り 12 坪、校舎移築 1 棟 (147 坪)、堂移築 (165 坪)、小使室新築 (20 坪)、家庭科教室施設、便所改築、井戸新設
- 8 下品野小学校…老朽校舎取り壊し (308 坪)、新築 2 階建 (12 教室 315 坪)、校舎移築 1 棟 (99 坪)、屋内運動場新築 (200 坪)
- 9 上品野小学校…屋内運動場新築 (80 坪)、講堂教室改造、運動場整地
- 10 掛川小学校…校舎改築第 1 期工事 (45.9 坪)、運動場整地 (900 坪)
□内運動場（屋？）新築 (60 坪)、便所改築

瀬戸市品野町合併条件協定付帯事項（２－２）

- 11 道路、橋梁、河川の維持、修繕及び災害復旧並びに逐次永久橋への架替
- 12 下品野宮前地区の排水及び下水工事の早期施行
- 13 町道植田落合線、後田線、岩屋堂線の舗装
- 14 下記道路などの改良整備
 - 下 品 野…大松戸九反田線、坂上八床線、南島線、中島線、植田落合線、宮前境井線、東田線、西田天白線、馬場八床線、西芳洞線、下品野上半田川線、芳洞線東島窯谷線、堤洞線
 - 中 品 野…井山庄洞線、井山上品野線、中品野線、下町田線、西田迎川線、山崎線
 - 上 品 野…迎川上品野線、中町線、中洞線、慈源寺北山線、横町線、学校線、上品野上川線、お墓線、桑下線、東山市野々線、金地線、蟹川線
 - 白 岩…猪畑線、
 - 片 草…中馬線
 - 上半田川…上川笠原線、鶴里線、上川白岩線、喜平治線
 - 下半田川…笠原線、三次郎線、
 - 沓 掛…下品野定光寺線、半の木線、大牧線
 - 林 道…尾呂線、鳥原線、片草東山線、上川小林線、茨藪線、一本松線

十一 県の施行にかかる砂防、治山治水事業については施行及び計画中のものを引続き促進すると共に次の事業については、引続き特別考慮を払い達成に努める。

- イ 国道蒲郡岐阜線の改良及び舗装
- ロ 県道下品野駄知線、名古屋守山多治見線、沓掛瀬戸線、上半田川名古屋線の改良整備、下品野足助線の舗装、
- ハ 県道下品野足助線を曾野まで延長、県道編入と整備舗装
- ニ 品野川、鳥原川、蛇ヶ洞川（三国川を含む）、を準用河川に編入し改良促進を図る。

十二 その他

- 1 国、県有地の払下げについては、地元優先とする。
- 2 治安協力費の支出については、特別の考慮を払う。

この協定書は、瀬戸市及び品野町が議会並びに関係機関との協議を経て定めたものであることを確認する。

昭和33年12月 日

瀬戸市長	加藤章
品野町長	戸田由逸
瀬戸市議会議長	伊藤清春
品野町議会議長	塚田金蔵
瀬戸市議会合併委員長	加藤京松
品野町議会合併委員長	安藤清兵

附 明治39年時 町村小字（こあざ）

《東春郡誌》

町村の小字は其の小区域の名称たりと雖も，其の名往々古来より称する所にして、歴史地理に関して最も因由深し、復温故知新の補
たらずんばあらず。故に之を掲げて後の考証に備ふ、（仮名は総て旧本に依り改めず）

大字下品野 大松戸（オオマツト） 後田（ウシロダ） 中島（ナカジマ） 才目（サイメ） 五反田（ゴタンダ） 清水洞（シミズボラ） 東島（ヒガシジマ） 洞田（ホラダ） 竈谷（カマドタニ） 植田（ウエタ） 落合前（オチアイマエ） 九反田（クタンダ） 境井（サカイ） 東田（ヒガシダ） 宮前（ミヤマエ） 山崎（ヤマザキ） 落合（オチアイ） 七反田（ヒチタンダ） 西田（ニシダ） 小坂（コザカ） 鳥林（トリバヤシ） 八床（ヤトコ） 馬場（バンバ） 堤洞（ツツンボラ） 東山（ヒガシヤマ） 北山（キタヤマ） 島田（シマダ）	大字片草 滝坂（タキザカ） 腰廻（コシマハリ） 下田（シモタ） 南洞（ミナミホラ） 仲洞（ナカホラ） 前田（マエダ） 上海道（カミノカイトウ） 芋子（イモコ） 阿原（アワラ） 外田（ソトダ） 萬泥（マンドロ）
大字中品野 東山（ヒガシヤマ） 大洞（ヲヲホラ） 勝ヶ洞（カツケホラ） 鳥原（トリハラ） 庄洞（シャウホラ） 八幡前（ハチマンマエ） 小枝（コエタ） 花之木（ハナノキ） 五反田（ゴタンダ） 井山（イヤマ） 人代（ヒトダイ） 森屋敷（モリヤシキ） 引越（ヒツコシ） 奥畑（オクバタ） 西山（ニシヤマ） 前田（マエダ） 下町田（シモテウダ） 山崎（ヤマザキ） 迎田（ムカウカワ） 廣之田（ヒロノタ）	大字上半田川 星山（ホシヤマ） 中平（ナカダイラ） 向山（ムカエヤマ） 新田（シンデン） 神宮（ジングウ） 榎戸（エノキド） 洞（ホラ） 棚洞（トチホラ） 前田（マエダ） 小林（コハヤシ） 早稲田（ワセダ） 宮之入（ミヤノイリ） 大石本（ヲライシモト） 寶田（ホウデン） 南平（ミナミヒラ） 梅洞（ツガホラ） 竈ヶ洞（カマケホラ） 小屋ヶ根（コヤケネ） 曲り根（マガリネ）
大字上品野 慈源寺（ジゲンジ） 南（ミナミ） 大中村（オオナカムラ） 小中村（コナカムラ） 縄手（ナワテ） ヲトケ 山下（ヤマシタ） 北島（キタジマ） 金地（カネジ） 一野瀬（イチノセ） 向田（ムカヒダ） 竈下（カマシタ） 桑下（クワシタ） 杵野洞（イリノホラ） 一野坪（イチノツボ） 榎下（エノキシタ） 會津（カイヅ） 呉町（クレマチ） ヲハカ、 西山（ニシヤマ） 北山（キタヤマ） 東山（ヒガシヤマ） 南山（ミナミヤマ）	大字下半田川 坂屋敷（サカヤシキ） 改外（カイト） 石田（イシダ） 東屋敷（ヒガシヤシキ） 沼之田（ヌmanoダ） 西山田（ニシヤマダ） 東山田（ヒガシヤマダ） 宮之前（ミヤノマエ） 橋場（ハシバ） 冷田（ヒエタ） 休場（ヤスミバ） カミタ 神屋前（カミヤマエ） 向畑（ムカエバタ） 三次郎坂（サンジロウサカ） 尾呂（オロ） 富士（フジ）
大字白岩 白石（シライシ） 寺田（テラダ） 坂セ（サカセ） 岩ハナ（イワハナ） 西ノ口（ニシノクチ） 向田（ムカイダ） 陣田（ジンデン） 東（ヒガシカイト） 前田（マエダ） 屋敷（ヤシキ） 裏山（ウラヤマ） 角ヶ洞（カクケホラ） 登リ（ノボリ） 平洞（ヒラホラ） 向畑（ムカバタ） 相ノ根（アイノネ） 丸塚（マルヅカ） 猪畑（シシバタ）	大字沓掛 大牧（オオマキ） 南面田（ミナミヲモダ） 北面田（キタヲモダ） 下内垣外（シモウチガイトウ） 大道（ダイドウ） 應夢山（オオムサン） 青簾（セイレン） 鯨坂（ドジョサカ） 上内垣外（カミウチガイトウ） 田平（タビラ） 廣見（ヒロミ） 後田（ウシロダ） 半ノ木（ハンノキ） 杵ヶ洞（イリケホラ）

品野地区の神社 1

下品野 神明社 1390(元中7年)創建 勧請は村上勘助(信州の豪族村上主理之介の後継) 拝殿の左にある石灯籠は傘・火袋・中台が六角形で竿に「奉寿進御宝物、明暦四年(1658)戊戌林鐘吉日品野村村上長次郎寄進」と刻まれ、市内最古の石灯籠で瀬戸市の登録文化財に指定されています。拝殿の右にある摂社『貴布禰社・津島社・白山社』の祠は1752(宝暦2年)に尾張藩が編纂した『張州府志』に記載され、品野祇園祭(津島社の祭)は270年以上昔から実施されていたようです。旧社格は村社で、祭神は瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)・国常立命(くにのとこたちのみこと)・豊秋津姫命(とよあきつひめのみこと)の三神です。

下品野 天白社と陶祖社 神明社の境内西側に、天白社と陶祖社の神殿が並んで建っています。天白社の元宮址は、落合集落西の水野川右岸にありましたが水害のため昭和30年に神明社境内へ遷宮されました。祭神は天穗日命(あまのほのひのみこと)で雨乞い神として祀られていました。陶祖社は明治43年品野町3丁目の金刀比羅社の脇に藤四郎社が創建され、昭和36年4月神明社境内西に新築遷座し社号も陶祖社に変更されました。

下品野 島田稲荷社 創建の時期は不詳。戸田修二著『瀬戸を中心とする著名寺院』(郷土史研究会「風土」収録)には「創建は往古より下品野小学校の地に鎮座と伝え、奉納棟札に『稲荷大明神、慶応3年(1867)12月吉日、神主二宮次郎太夫守道』…〈中略〉…明治43年3月現在地へ社地を移し、伏見稲荷大社より神璽と小祀証書を受領」と記されている。

中品野 八劔神社 創建者は長江入道と云われます。応仁の乱で美濃の戦いに敗れて品野へ落ち延び、後に桑下城を築き、1482(文明14年)今村城主の松原下総守広長と安土(やすど)坂の合戦で争って戦勝した長江民部少輔利景か、その長江家の子孫ではないかと思われます。八劔神社の最古の記録は「1558(永禄元年)松平監物が神社を重修」と残っています。八劔神社は代々菊田氏が宮司を務めてきたそうです。旧社格は村社で祭神は天照大神・素戔鳴男命(すさのおのみこと)・日本武尊(やまとたけるのみこと)・宮簀姫命(みやずひめのみこと)・武稲種命(たけいなだねのみこと)の五神です。

鳥原 八幡神社 創建者は室町期に宗良親王に随行した戸田弾正宗忠の家臣、岩松次郎利房だとの伝承があります。『尾張御行記』に鳥原社人岩松次太夫との記述があり、岩松氏末裔が当神社の宮司であったことは間違いありません。1774(安永3年)の石柱に大改修の記載がありました。摂社は本殿の右横に神明社と熊野社、左横には源太夫社の祠堂があります。境内には津島社の朱塗りの祠堂や山神社と大国主大神(おおくにぬしのみこと)の石祠があります。旧社格は村社で、主祭神は応神(おうじん)天皇です。

上品野 稲荷神社 創建は1625(寛永2年)で江戸初期創建の神社です。神殿鴨居に菊花紋章が飾られ、神殿前に一對、境内に二対の狛狐が有りますが、稲荷信仰の象徴の赤い鳥居はありません。社殿の東裏山内に昭和6年10月建立の旧社跡の碑が建っており、この時に境内配置が変更されたものと思われます。旧各社は村社で、祭神は豊受姫命(とようけひめのみこと)の一神のみです。

白岩 八王子神社 八王子社の社号が『寛文村々覚書』(1661~73)に載っており江戸時代初期以前に創建された神社です。1841(天保12年)の村絵図に坂瀬の氏神の森に記されており、この年以降にヤマヌケで現在地に移ったようです。参道石段途中の踊り場に5体の馬頭観音が祀られ、左の石室には1770(明和7年)の役の小角(えんのおづぬ)の石像がもつられています。本殿には天照大神の御子八神が祀られ、本殿西に社宮司社、神明社、秋葉社、右には津島社、稲荷社が祀られています。旧社格は村社です。

片草 八幡神社 創建の時期は不詳です。1694(元禄7年)改修の棟札が残されており、元禄期以前より存在する神社です。神社名鑑によると当神社の祭神は応神天皇のみで八幡三神ではありません本殿の左に稲荷社(三孤神)があり、右には秋葉社があり、その左にある祠には何も祀られていないが神明社があった可能性が高いと思われます。旧社格は村社です。

品野地区の神社 2

上半田川 金峰神社 創建の時期は不詳です。1576(天正4年)社殿造営の棟札と1621(元和7年)9月再建の記録があります。江戸時代の藩撰地誌「張州府志」などには祭神が「蔵王権現(ざおうごんげん)」と記され、「金峰」の文字は見られません。奈良吉野(大峰山)金峰山寺「蔵王堂」に祀られた修験宗の守護神「蔵王権現」号が、明治5年発布の修験宗廃止令により、同一神格の安閑(あんかん)天皇に変更されたようです。1693(元禄6年)に上・下半田川村と笠原村との山林境界を巡って訴願した際、勝訴を感謝して白山社を勧請した。大正7年この白山社を金峰神社に合祀したとき、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉那册尊(いざなみのみこと)を祭神に加えて内陣に祀り相殿となりました。当神社は瀬戸北部で唯一に常在宮司が勤められる神社で、他所を含めて社掌されています。旧社格は村社です。

下半田川 八劔社 創建時期は不詳です。当神社の神職を世襲した富田家初代の助太夫が1584(天正12年)から1623(元和9年)神主を勤めた記録が残されています。『寛文村々覚書』(1661～73)には「八劔」の社号が無く「大明神」と、『張州府志』にも「明神社」と記されていますが、『張州雑誌』には「八劔大明神祠」と記され、富田家保存の1782(天明2年)の棟札写本にも「八劔大明神」と記されています。八劔社は創建時から神明社と白山社が相殿となっており、天照皇御神・素戔鳴尊(すさのおのみこと)・日本武尊(やまとのみこと)・宮簀姫命(みやずひめのみこと)・武稻種命(たけいなだねのみこと)の五神が祀られています。境内には津島社と月読神碑があります。愛知県指定有形文化財の十一面観音菩薩立像と阿弥陀如来立像を安置した収納庫もあります。旧社格は村社です。

沓掛 神明神社 創建時期は不詳です。沓掛社人圓太夫が1837(天保8年)「寛文2年(1662)11月に山上より現地に遷座」と記した書とその後1716(正徳6年)に再建した棟札が残っています。当神社の祭神は伊弉諾尊(いざなぎのみこと)、伊弉那册尊(いざなみのみこと)、菊理姫尊(きくことひめのみこと)の3柱で、天照大神が祀られていませんが神明神社の社号となっています。『寛文村々覚書』(1661～73)等には熊野権現、白山、如来堂の3社が相殿として記されているが『張州雑誌』に

は熊野・白山に加えて神明祠が記されています。定光寺公用分類便覧に「明和7年寅(1770)6月沓掛村氏神の神明・熊野・白山3社を1つの社殿に祀り、是までは表向きの社人が居なかったので、今般、円太夫を表向き社人にするよう願い出た」と記され、神明神社の手前に円太夫神霊祠が建てられています。この小祠には村祢宜役の神主位牌6枚がおさめられています。旧社格は村社です。

妻の神社 創建時期は不詳です。『張州雑誌』(1772)に「斎神(さいのかみ)、斎或ハ明作祠」と表記され、最も古い文献です。「斎ノ神」は道祖神を指し、「塞神(さえのかみ)」「幸神(さいのかみ)」「賽神」(さいのかみ)等とも称されます。1801(寛政13年)の棟札には「道祖神」と記され、1862(文久2年)改築時棟札には「妻神」と記されています。下半田川の「妻の神社」には兄妹婚の悲話が伝わっているが、この伝説に影響されて現在の社号が定着したものと推察します。妻の神社の祭神は「猿田彦命」ですが「猿田彦命」は記紀神話で天孫降臨に際して道案内をした神で、所々に祀られる道祖神で多く見受けられます旧社格は村社です。

下半田川 富士宮神社 1885(明治18年)創建され、社殿内に富士宮神社、御嶽神社、秋葉・愛宕合社、富榮(とみさか)神社、稲荷神社、地神が相殿となっています。富榮神社は、1700～01(元禄13～14年)に美濃の笠原村と上・下半田川村の国境山境争論問題で活躍し、勝訴に貢献した下半田川の庄屋富田孫三郎を敬って奉祭した祠です。

岩屋堂 大勝稲荷社 稲荷社は岩屋薬師堂の岩窟右横に設けられた石段を登った磐座(いわくら)上に拝殿、その奥に本殿があります。岩屋堂公園での商売繁盛を祈念して勧請されたと伝えられています。

鳥原 秋葉堂 岩屋堂への道筋の「船山」という丘が削られ、鳥原会館が建設されました。頂上の秋葉堂・ふもとの庚申堂はその東側の敷地に遷宮されました。中品野町には秋葉神社の奉賛会があり、11月中旬の秋葉祭礼の前に役員が「可睡斎」(静岡県袋井市)へ代参し、火伏霊符「火用心」の大札(祭礼用)と小札(配布用)を請けます。秋葉祭礼のとき地元の参詣者に小札が配布されます。

品野地区の神社 3

品野地区の各地には天王社、秋葉社、山神社や御嶽祠などの叢祠が多数見られます。このなかで**天王社を紹介したい**と思います。現在では津島神社の祭神はスサノオノミコトとなっていますが、江戸時代までは仏教の祇園精舎の守護神 牛頭天王が祀られて「お天王さま」と親しまれてきました。品野地区では毎年7月に祇園祭が盛大に行われます。

下品野(中島) 津島神社 創建は不詳です。明治23年頃 道路(国道248号)建設に合わせて現在地に新築移動したようです。昭和40年に下品野自治会が新町名(品野町1~8丁目)への移行と共に各町内の津島神社(お天王さん)を中島の津島神社に合祀し、品野祇園祭を自治会が主催することを提案し、多数の賛成を得て決定しました。山車(だし)を中心とした品野祇園祭の隆盛がここから始まりました。

品野口(1丁目1組) 津島神社 合祀に反対した組(シマ)で、瀬戸消防署東分署の真裏に有ります。2段の石垣の上に見事な陶製の祠が鎮座し、祠の後ろに「奉納 昭和57年7月 創立15周年 工房 濤(みお) 神成濤」の棟札が彫り込まれています。

落合町 津島神社 落合橋の北東にあり、昭和60年新築の銅葺き覆屋の木製小祠で手作りの注連縄が掛けられています。明治33年の板製棟札があり、馬道具新調の文字が有りました。合祀反対でした。

中品野連区 津島神社5社 中品野連区正副自治会長が津島代参をし、お札を各自治会に配ります。提灯山を張ったり、大提灯一對と赤い子提灯を張ったり、それぞれの方法で祭事を行います。郷西のお天王さんは平成11年新築です。郷西・郷東シマには周囲に注連縄が張られていました。八劔社境内に合祀されたお天王さんは本殿右側3祠の一番左です。森屋敷西・東組と後の前組・井山町の4つのシマです。鳥原の祠は八幡神社石段下で、祭事は大提灯と赤ちょうちんで飾り境内で盆踊りを踊ります。片付け後、鳥原会館でご苦労さん会を行ないます。

白岩町 津島神社 お天王さんは本殿の東側にあります。お天王さんの祠は朱色に塗られた祠が多いのですが白岩の祠は白木の祠でした。

上品野町 津島神社 金地(かねじ)のお天王さんは平成3年に新築され、平成14年には覆屋も作られたとの棟札が掲示されています。以前は屋根神様であった中町のお天王さんも現在の地に移動新築され、覆屋のある木製の小祠でいつ行っても神前にお米と塩が供えられ、櫛も飾られていました。お札の代参は金地と中町が交代で行なっています。

片草町 津島神社 お天王さんは中島にあり、覆屋に包まれた朱塗りの祠です。7月のお天王祭に合せて、代参でお札を求めてオシャトウに納め集落の下手(白岩境)と上手(雨沢境)に注連縄を張っていましたが、最近では少子高齢化が進み、注連縄も昨年は取り替えられなかったようです。

上半田川町 津島神社 上半田川町では大正7~8年頃チフスが発生し15人が罹災し、2人が亡くなった。この騒動の後、村の天王社が津島神社のお天王さんを勧請して、6つあるシマ毎に祀るようになったそうです。集落への入り口にある下島の天王社は瓦屋根付きの木製の小祠です。宮の入島の天王社は金峰神社の鳥居前に、寺島の天王社は寺前橋の西に祀られています。上島の天王社は集落の上手のはずれにあり、下り島は上島集落の中に道祖神と共に祀られ、ています。新田島(中央島)は名学大近くの集落の中に祀られ、大正5年の立派な灯籠があります。今は島ごとに天王祭りを行い、提灯山を立て、ご苦労さん会をする所もある。14日念仏も無くなり地域の話を提供する場になっている。

下半田川町 津島神社 天王社は川東と八劔神社境内に祀られています。天王祭には、沓掛境、笠原境、市之倉境の3ヶ所の道路と平行に注連縄を張ります。以前は八劔社の参道から県道の入り口まで赤い提灯を灯し提灯山を作った。又、入口には大きな鳥居状の行灯を作り、小さな行灯を参道に並べた。今では掛け行灯は社前のみに出されます。

沓掛 津島神社 天王社は古くは定光寺の境内と半ノ木に祭祀されていたが、今は神明神社の境内にある。昔は祭の日には、提灯山を飾り各島からオマント(飾り馬)がでた。夕方から始まり、ほおずき提灯を持ってお参りをしたが、今では行われていません。

品野地区の寺院 1

名 称	所 在	宗派	創 建 等	概 要	
寂場山 菩提寺	上品野町	天台宗	1961年再建	諸説あるが、750年頃に養海上人が創建したとも伝えられる。	
 setopedia	尾張城東西国三十三観音 第二十九番札所。天台宗寂場山菩提寺。本堂は千手観音菩薩を奉り、不動明王・毘沙門天・弘法大師・役行者(えんのぎょうじゃ)が安置されている。本堂東には、出雲大社より招神の神「えびす」様を迎えお奉りしてある。菩提寺は国内でも有数な霊山で、加持祈禱の道場でした。昭和4(1939)年に本堂が焼失し、今の本堂は昭和36(1961)年に再建された、菩提とは「正しく最上の覚り」という意味である。参道と本堂の間には、阿形・吽形の一對の仁王像がある山門があり、昭和46(1971)年に再建された。寺伝では、天平年中(729～749)に創建された華嚴宗の寺とされている。その一方で、750年頃に養海上人が創建したお寺とも伝えられ、参道石段の右横にある石碑「東照上人塔」には養老年中(717～724)当寺の建立と彫られている。 境内には88ヶ所の平場がみられ、中世の12世紀末～16世紀の沢山の遺物が採集され数々の宗教施設があったことが伺われる。				
瑞應山 祥雲寺	上品野町	曹洞宗	1749年再興	地蔵菩薩を本尊とし、1541年創建	
 setopedia	地蔵菩薩を本尊とし、天文10年(1541)当時の品野城主櫻井内膳正源信定が創建。のち戦国時代を経て荒廃したが、寛延2年(1749)雲興寺28世大興栢春大和尚が中興開山となり、諸堂宇を建立した。当時には、悪い夢を良い夢にかえる霊験があると伝えられる「夢違観音像」が祀られています。この像は、地元出身で日本を代表する彫刻家で芸術院会員でもあった長江録弥先生が寄進された珍しい観音様です。月に一回の観音講と観音大祭のみ拝観できます。				
多聞山 吉祥寺	上半田川町	曹洞宗	1841年再興	本尊は行基作毘沙門天。開創は寛永7年(1630)吉祥庵創建	
 setopedia	行基作毘沙門天を本尊とし、寛永7年(1630)吉祥庵開祖以来13世まで続いたが、しばらく無住のところ、天保11年(1840)再び法地開山として、雲興寺34世王瑞慧琳大和尚が再興した。 当寺には喜平治大薩理の由来あり、俗名長江喜平治平景勝、戒名を無害不説居士は常に頭痛に悩むこと久し、吉祥寺毘沙門天に祈願し、日夜信仰し重い頭痛も治り永く幸福な余命を送る。居士94歳で臥床僅かに3日、1日齋戒沐浴、恭しく本尊を拝し「願わくは余が信仰の余力は永く世人の頭痛に悩む人をして、その苦患を免れしめ給え」と請願し目夢るがごとく大往生を遂げた。と伝えられている。				
洞谷山 浄源寺	鳥原町	曹洞宗	1454年	本尊 白衣観世音菩薩(行基作)雲興寺2代天先祖命大和尚建立	
岩屋山 薬師堂	岩屋町		725年(伝)	浄源寺奥の院 行基作観音像が、浄源寺の由来になったと伝わる	
 setopedia	神亀2年(725)行基が当地に草庵を結び、聖武天皇の病氣平癒を祈念して仏像3体を彫刻しこれを石室に安置して岩屋山薬師堂と称した。開基から700年余後の永享2年(1430)雲興寺二世天先祖命禅師は、薬師堂の下流に堂宇を建立し、行基作の白衣観世音菩薩を本尊として安置したのが浄源寺の開山である。境内の紅葉の樹間と山林、回遊式築山池泉庭園、本堂内の絵天井329枚は圧巻である。				

品野地区の寺院 2

名 称	所 在	宗派	創 建 等	概 要	
龍洞山 久雲寺	落合町	曹洞宗	1620年改称開山	725年行基により開創と伝わる。本尊は釈迦牟尼如来	
 setopedia 	神亀2年(725)頃創建と伝わる。寛文年間(1661～1672)の文書によれば、この天台宗の寺院の旧跡に落合城主の戸田弾正宗忠により、応永8年(1402)に香華院長寿寺が創建され、雲興寺開山天鷹祖佑禅師を請して草創開山とした。その後永禄4年(1561)に久龍庵を創設して薬師如来像を安置した。元和6年(1620)久龍庵の西隣に長寿寺を移転して諸堂宇を整備し曹洞宗に帰属し現在の龍洞山久雲寺となった。その後享和2年(1802)雲興寺31世太謙遜翁大和尚は、諸堂宇を再建して再興開山とした。 なお、現在の山門は、かつては清州城の裏門であり、往時には織田信長がくぐっていたといわれる由緒ある門で、縁あって、昭和31年にこの地に再建されたものです。				
大松山 全宝寺	品野町2	曹洞宗	1560年以降再建	本尊 阿弥陀如来、736年創建(伝)、	
 setopedia	天平6年(736)天台宗として創建後災禍により廃寺となる。永禄年中雲興寺14世居雲宗準和尚が中興開山し曹洞宗となる。永禄3年(1560)品野城主戸田直光が織田信長家臣林三郎兵衛正俊に攻め落とされ、落ち逃れる折り、城址に地蔵様を祀るようと言いつ残して立ち去ったといわれ、その城址が「阿弥陀ヶ峰砦跡」とある阿弥陀堂、すなわち現在の全宝寺である。この地蔵菩薩は坐像の石仏で毎年8月24日頃の命日に老若男女総出のお祭りをして村中の安全を祈ったと伝えられ、今日まで受け継がれている。 平成15年(2003)に旧地蔵堂を改修し、品野祇園祭の神武天皇像を安置している。				
応夢山 定光寺	定光寺町	臨済宗	1535年再建	臨済宗妙心寺派。建保三年(1336)創建。本堂は国指定文化財	
源敬公廟	定光寺町		1650年	徳川義直公(1650年没)の墓所、国指定文化財	
 wikipedia  setopedia	延命地蔵菩薩を本尊とし、建保3年(1336)覚源禅師によって創建。禅師は9歳で出家し鎌倉の建長寺で修行の後54歳の時尾張の国を遊歴中に座禅修行のある夜、不思議にも山中より足光佛という霊像を掘り出した夢を雲水一同がみたので、寺号を定光寺と名付け、山号を応夢山とした。江戸時代には尾張藩祖徳川義直公の帰依深く、巡行の途次には当寺に立ち寄られ、自ら墓地を定めて設計させたのが尾張藩祖廟(源敬公廟)である。廟は儒式で帰化明人の陳元賛の設計である。				
林昌寺(廃寺)	下半田川町	不詳	1400年頃創建	かつて「いしょうじ」と呼ばれたが、廃寺となった。詳細不明	
	下半田川八釘社の東方に「いしょうじ」という地名と寺跡の伝承がある。1400年頃建立と推測される中世の宝篋印塔があり、寺院があったと思われる。「尾張徇行記」(1822)によれば、「下半田川村に定光寺末寺林昌寺があり、天和2戌年(1682)にこの号を外之原村の長喜庵に受け継がせた」とある。				

No.	資料名	略称	発行日	発行元
1	東春日井郡誌	《東春郡誌》	大正12年7月7日	東春日井郡役所
2	瀬戸市史 資料編 1・2・3・4・5・6	《市史》	昭和60年3月1日	瀬戸市史編纂委員会
3	瀬戸市歴史ガイドブック 千年続く誇りを巡る旅	《千年旅》	平成30年3月28日	瀬戸市文化センター内
4	近世の瀬戸	《近世の瀬戸》	平成8年3月31日	瀬戸市史編纂委員会
5	品野西遺跡 調査報告 第13集		平成9年3月31日	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
6	上品野蟹川遺跡Ⅱ		平成11年3月31日	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
7	瀬戸・尾張旭郷土史研究会報	《瀬・旭郷史研》		瀬戸・尾張旭郷土史研究同好会
8	瀬戸歩き 瀬戸の石ぶみ	《歩》	平成7年11月8日	九功 村瀬一郎
9	水野史年表	《水野史年表》	昭和35年10月20日	水野史編纂委員会
10	品野連合自治会 昭和47年5月19日 議事録		昭和47年5月19日	品野連合自治会
11	愛知高原国定公園 岩屋堂ガイドブック I	《岩屋Ⅰ》	平成28年2月15日	せと・まるっと環境クラブ
12	愛知高原国定公園 岩屋堂ガイドブック II	《岩屋Ⅱ》	平成31年1月15日	せと・まるっと環境クラブ
13	風土 昭和30年1月1日創刊 昭和31年,昭和32年,昭和33年 廃刊	《風土》	昭和30年1月1日	郷土史学研究会
14	改訂増補 瀬戸ところどころ今昔物語	《瀬戸今昔》	昭和31年5月20日	大瀬戸新聞社 安藤政二郎
15	尾陽應夢山・定光寺誌＝開創六百五十年記念年表及び依拠資料	《定》	昭和60年3月9日	應夢山 定光寺
16	大龍山 雲興寺史 年表	《雲》		大龍山 雲興寺
17	せとのお寺の手びき 瀬戸市仏教会		平成16年10月1日	瀬戸市仏教会
18	品野西遺跡 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 調査報告 第13集		平成9年3月31日	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
19	品野久雲寺と赤津長谷観音について			小沢武夫
20	瀬戸市下品野「久雲寺」所蔵文化遺産について			飯田英男
21	平成6年5丁目観音堂再建寄付者芳名板		平成6年3月吉日	品野町5丁目町内会
22	栄畑(えいばた)シマ(品野町5丁目) 古文書		明治・大正・昭和	品野町5丁目 栄畑ジマ
23	品野の地名設立過程 風土 昭和30年2月号 第1巻 第2号 掲載		昭和30年2月	戸田修二
24	東京大学大学院農学生命科学研究科付属演習林生態水文学研究所	《水文学》	https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/	
25	創立五十周年記念誌 瀬戸市立品野中学校	《品中50周年》	平成9年	瀬戸市立品野中学校
26	創立百周年誌 上品野小学校	《上小百年史》	平成9年	瀬戸市立品野台小学校
27	校舎改築記念誌 昭和48年 下品野小学校	《下小改築》	昭和49年3月1日	瀬戸市立下品野小学校
28	瀬戸市制 50周年記念誌	《瀬戸50周年》	昭和54年10月1日	瀬戸市
29	瀬戸市 70年のあゆみ 瀬戸市政70周年記念誌	《瀬戸70周年》	平成11年12月20日	瀬戸市
30	寺社、地域等の言い伝え	《伝》		

編集後記

私たち下品野地域力向上協議会の伝統文化グループは平成 31 年度の事業計画を「第 150 回品野祇園祭を記念して古い写真や祭りに関する資料の収集」と、長期的方針として「郷土品野の歴史的年表の作製」と決定しました。令和元年 10 月 30 日の中日新聞に掲載された「文化庁選定の『歴史の道百選』に品野地区の信州飯田街道が追加選定」の記事を見て驚きました。信州飯田街道(中馬街道)の「品野町 5 丁目」、「上品野町稲荷神社周辺」、「白岩町の坂瀬坂から片草町の岐阜県境」の三ヶ所が選定されました。県境の土岐市側には立派なタイル製の『中馬街道』の看板が設置されていますが、瀬戸市内には信州飯田街道(中馬街道)や歴史的な文化財等の案内看板はほとんど無く、地域住民の皆さんや特に子供たちには『街道』への認識が極めて薄いのは当然だと思います。令和 2 年新型コロナウイルス感染防止のため、「第 150 回品野祇園祭」が神事のみ行われ、全てのイベントが中止になりました。品野祇園祭の謂れや歴史を調査する為、余床町と旧品野町に属していた 24 社のお天王さん(津島神社)を尋ねました。調査した各地の祇園祭の歴史と現況、「品野祇園祭」の歴史的資料等を掲載した『品野祇園祭—150 年以上の伝統の歴史』と題した 24 頁の小冊子を作製し、全戸に配布しました。令和 2 年 3 月歴史の道「飯田街道(中馬街道)」沿いの各地区に看板を立てる等の活動を行うため、近隣連区の有志を誘い「郷土の歴史と文化を広める会」を結成しました。伝統文化 G と広める会は協力し合って信州飯田街道(中馬街道)の関連事業などを実施してきました。9 月には「せとモノがたりの会」の結成に参加し、事務局(瀬戸市文化課)に「郷土の歴史的遺産」を市民に知らせる看板などが極端に少ないことをアピール。令和 3 年、市の文化課によって「歴史の道」の 3 ケ所に大型看板を設置して頂きました。私達も大型看板を街道の 2 ケ所に立て、市の助成と地域の皆さまの協力を得て「タイル製の中馬街道の道標看板」を街道の 28 ケ所に設置しました。地図入りのパンフレット《『文化庁 歴史の道百選』品野地区 中馬街道の歴史的文化財をたずねて》を作製し、「新春の中馬街道を歩く会」「秋の中馬街道を歩く会」等を主催。他連区の公民館や各種団体にも、街道のガイド・案内に協力しました。更に、「せとモノがたりの会」で毎年テーマを決めて市内各地に看板を立てる活動にも参加し、品野地区委員会としてテーマ《古城跡》では「品野城」・「桑下城」・「片草城」・「山崎城」、

《寺社・堂宇》では「菩提寺」、《街道・道標》では「ニョウライサンの辻」で地域に案内看板を設置できました。市内の各地区にも同様の看板が立ちました。

祇園祭・『信州飯田街道(中馬街道)』や寺社・堂宇・品野の 7 古城跡、地域の歴史的文化遺産を調査・観察し学習する中で、多くのことを知り、新しい発見もありました。令和 5 年「年表作製」を始めましたが、「瀬戸・品野中心の充実した年表作製」に意見がまとまり、令和 6 年度は年表「郷土品野地区の歴史」作製に集中してやっと完成しました。年表のポイントは以下の点です。

① 品野地区には後期旧石器時代から祖先が住み着いていたようです。縄文・弥生・古墳時代の遺跡が品野各地区で発掘され、品野西遺跡では飛鳥時代の終わり頃の「瓦の破片」が出土(古代寺院の可能性) ② 鎌倉時代に大金左衛門尉重高が品野城(上品野)を築城後、1482 年大槓山・安土坂の合戦で品野の長江利景軍が今村の松原広長軍に大勝利した戦を機に、品野の戦国時代は激しく、合計 7 古城が築城されました。 ③ 江戸時代初代尾張藩主徳川義直の窯屋呼び戻しで美濃国恵那郡水上村より品野村に新右衛門・三右衛門兄弟が移動。 ④ 江戸から明治への歴史的変換は政治・軍事・経済・教育・交通など全面的近代化が一気に進行。日清・日露・第 1 次大戦での勝利から、昭和の支那事変・大東亜戦争の敗戦へと続く軍事。戦後の復興から平成・令和へと時代は進み、21 世紀もはや、1/4 が経過しました。

歴史的に祖先が築き上げてきた文化遺産が次々と失われ、変化しているこの時期に先人が残した歴史と文化を記録しておくことは将来に向かって必要なことだと考えます。年表『郷土品野地区の歴史』を何とか完成できました事は調査にご協力頂きました多くの方々のおかげだと深く感謝いたします。

執筆にあたり、史料・参考資料・解説・QR コードなどを添付し、写真も掲載しました。当初の予定から大幅な変更があり、時間に追われて内容に不十分な点や、間違いがあるかもしれません。ご容赦願いたいと思います。

最後に、ご協力いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。

令和 7 年 3 月吉日

下品野地域力向上協議会 伝統文化グループ 水野 毅 (拝)

郷土品野地区の歴史

2025 年 3 月 20 日 発行

窓 戸田浩二 深見修一郎



後列：水野昇・伊藤菊男・駒井伸二・長江和春・岩田光太郎・畦地幸次・上杉毅
前列：江尻毅・戸田照政・淀昭康・上野純一・水野毅・三浦順一・上田克弘

下品野連区自治会
会長 上野 純一
下品野地域力向上協議会
会長 淀 昭康
下品野地域力向上協議会・伝統文化グループ
郷土の歴史と文化を広める会
代表 水野 毅
三浦 順一
伊藤 菊男
上田 克弘
江尻 毅
上杉 毅
畦地 幸次
戸田 浩二
長江 和春
駒井 伸二
深見 修一郎
戸田 照政
岩田 光太郎
水野 昇

発行者 瀬戸市品野町 6 丁目 116 番地
下品野地域力向上協議会
電話：0561-41-4118

編集者 下品野地域力向上協議会・伝統文化グループ
協力 郷土の歴史と文化を広める会

印刷 瀬戸市品野町 6 丁目 53 番地
水野プランニング



平成29年作成
市民のまちへの誇りと愛着
の醸成を図り、瀬戸の魅力
を全国に伝えるツールです



品野町の町紋章
昭和34年4月1日
瀬戸市に合併まで使用

